

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年6月28日
【事業年度】	第99期（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）
【会社名】	エスビー食品株式会社
【英訳名】	S & B FOODS INC .
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山崎 雅也
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋兜町18番6号
【電話番号】	(03) 3668-0551 (代表)
【事務連絡者氏名】	管理サポートグループ経理管理室室長 寺尾 隆一郎
【最寄りの連絡場所】	東京都板橋区宮本町38番8号
【電話番号】	(03) 3558-5531 (代表)
【事務連絡者氏名】	管理サポートグループ経理管理室室長 寺尾 隆一郎
【縦覧に供する場所】	エスビー食品株式会社 板橋スパイスセンター (東京都板橋区宮本町38番8号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第 95 期 平成20年 3 月	第 96 期 平成21年 3 月	第 97 期 平成22年 3 月	第 98 期 平成23年 3 月	第 99 期 平成24年 3 月
売上高 (百万円)	119,262	122,907	124,474	126,722	127,381
経常利益 (百万円)	3,524	3,826	3,925	4,647	4,128
当期純利益 (百万円)	1,857	2,053	2,185	1,249	1,296
包括利益 (百万円)	-	-	-	1,602	1,711
純資産額 (百万円)	23,564	23,833	25,820	26,916	28,118
総資産額 (百万円)	94,511	95,985	95,290	94,970	97,142
1株当たり純資産額 (円)	675.10	684.80	741.93	773.97	809.17
1株当たり当期純利益金額 (円)	53.32	59.01	62.78	35.93	37.31
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	24.88	24.83	27.10	28.34	28.95
自己資本利益率 (%)	7.81	8.68	8.80	4.74	4.71
株価収益率 (倍)	15.64	13.57	13.71	22.27	19.08
営業活動によるキャッシュ ・フロー (百万円)	3,477	4,446	4,748	3,664	3,731
投資活動によるキャッシュ ・フロー (百万円)	2,976	3,327	3,504	3,315	1,409
財務活動によるキャッシュ ・フロー (百万円)	409	1,453	2,374	622	809
現金及び現金同等物の期末 残高 (百万円)	15,681	15,341	14,203	13,914	15,427
従業員数 (人)	1,468	1,535	1,616	1,644	1,641
(外、平均臨時雇用者数)	(998)	(1,000)	(957)	(927)	(934)

(注) 1. 売上高には消費税及び地方消費税(以下「消費税等」という。)は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第 95 期 平成20年 3 月	第 96 期 平成21年 3 月	第 97 期 平成22年 3 月	第 98 期 平成23年 3 月	第 99 期 平成24年 3 月
売上高 (百万円)	109,801	113,297	114,994	116,927	117,480
経常利益 (百万円)	2,823	3,206	3,596	4,082	3,358
当期純利益 (百万円)	1,464	1,741	1,985	909	1,187
資本金 (百万円)	1,744	1,744	1,744	1,744	1,744
発行済株式総数 (千株)	34,885	34,885	34,885	34,885	34,885
純資産額 (百万円)	21,791	21,853	23,651	24,443	25,562
総資産額 (百万円)	76,834	77,957	78,440	77,778	80,344
1株当たり純資産額 (円)	625.61	627.49	679.14	701.91	734.05
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	11.00 (5.00)	12.00 (6.00)	13.00 (6.00)	14.00 (7.00)	14.00 (7.00)
1株当たり当期純利益金額 (円)	42.03	49.99	57.02	26.12	34.09
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	28.36	28.03	30.15	31.43	31.82
自己資本利益率 (%)	6.59	7.98	8.73	3.78	4.75
株価収益率 (倍)	19.84	16.02	15.10	30.63	20.89
配当性向 (%)	26.17	24.00	22.80	53.60	41.06
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	1,137 (283)	1,179 (280)	1,200 (267)	1,210 (252)	1,219 (242)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【沿革】

当社は、初代社長山崎峯次郎（創業者）が大正12年カレーの調合に成功し、自家営業に着手したときにその源を發し、わが国スパイス産業の草分けとして同15年浅草蔵前に興しました日賀志屋をもってその母体といたします。

昭和5年	「ヒドリ印」カレーを発売する。
昭和10年11月	東京都板橋区に工場（のちの東京工場）を建設する。
昭和15年4月	株式会社日賀志屋に改組し、本店所在地を東京都板橋区志村清水町347番地とする。
昭和24年7月	本店を東京都中央区日本橋兜町三丁目32番地（現在の東京都中央区日本橋兜町18番6号）に移転する。
昭和24年12月	商号をエスピー食品株式会社に変更する。
昭和26年6月	東京店頭売買銘柄の承認を受け、株式を公開する。
昭和35年3月	エスピーガーリック工業株式会社を設立する。
昭和36年4月	エスピースパイス工業株式会社を設立する。（現・連結子会社）
昭和36年10月	東京証券取引所市場第二部に株式上場する。
昭和48年5月	上田工場を新築竣工する。
昭和48年10月	株式会社エスピーカレーの王様を設立する。（現・連結子会社）
昭和49年4月	有限会社大伸を設立する。（平成5年6月株式会社に組織変更、現・連結子会社）
昭和52年11月	東松山工場を新築竣工する。
昭和54年4月	株式会社エスピー興産を設立する。（現・連結子会社）
昭和56年3月	東京工場の生産設備を東松山工場へ移転する。
昭和56年6月	エスピー資料開発センターを設置する。
昭和58年11月	開発部研究室を拡充し、中央研究所に改称する。
昭和59年5月	エスピー資料開発センター内にスパイス展示館並びにエスピーミーティングホールを設置し、中央研究所と併せ、エスピースパイスセンターと改称する。
平成元年7月	株式会社エスピーサンキョーフーズを設立する。（現・連結子会社）
平成2年3月	株式会社ヒガシヤデリカを設立する。（現・連結子会社）
平成3年10月	エスピースパイスセンター内に、中央研究所棟を新築竣工する。
平成4年4月	S&B INTERNATIONAL CORPORATIONを設立する。（現・連結子会社）
平成4年12月	エスピースパイスセンター内に、事務所棟を新築竣工する。
平成5年6月	宮城工場を新築竣工する。
平成6年11月	エスピーガーリック工業株式会社とヒドリ食品株式会社が合併し、エスピーガーリック食品株式会社に商号変更する。（現・連結子会社）
平成7年12月	埼玉県入間郡三芳町に、首都圏物流センターを設置する。
平成12年1月	兵庫県西宮市に、関西物流センターを設置する。
平成15年6月	執行役員制度を導入する。
平成17年1月	茨城県結城郡石下町（現在の茨城県常総市）に、エスピーハーブセンターつくばを設置する。
平成18年4月	埼玉県入間郡三芳町に、首都圏第2物流センターを設置する。
平成19年4月	沖縄県豊見城市に、J Aおきなわエスピーハーブセンターを設置する。
平成20年7月	本社屋を新築竣工（建替え）する。
平成20年9月	エスピースパイスセンターを板橋スパイスセンターに改称する。
平成20年11月	東京都中央区に、八丁堀ハーブテラスを新築竣工（建替え）する。
平成22年11月	首都圏物流センターを埼玉県川越市に移転し、首都圏第2物流センターを首都圏物流センターに統合（平成23年1月）する。

3【事業の内容】

当社及び当社の関係会社は、主としてスパイスを原料とする食品品の製造・加工会社を中心に、原材料・商品の供給及び販売等を担当する会社をもって構成されており、当社及び主な関係会社の位置づけは次の通りであります。なお、次のセグメントは「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

(1) 食品品事業

各種香辛料、即席カレー、チューブ製品、レトルトカレー、加工米飯等の製造・販売のほか、関連する原材料の調達を行っております。

当社が製造・販売を行うほか、下記の活動を行っております。

・生産関係

エスビーガーリック食品株式会社、エスビースパイス工業株式会社、株式会社エスビーサンキョーフーズ、株式会社大伸は商品の製造を担当し、当社に納入しております。また、大連愛思必食品有限公司は中国で加工食品の製造を行い、その一部を当社に納入しております。

・原材料関係

株式会社エスビー興産は、輸入原料及び国内原材料等の調達を担当し、当社に納入しております。

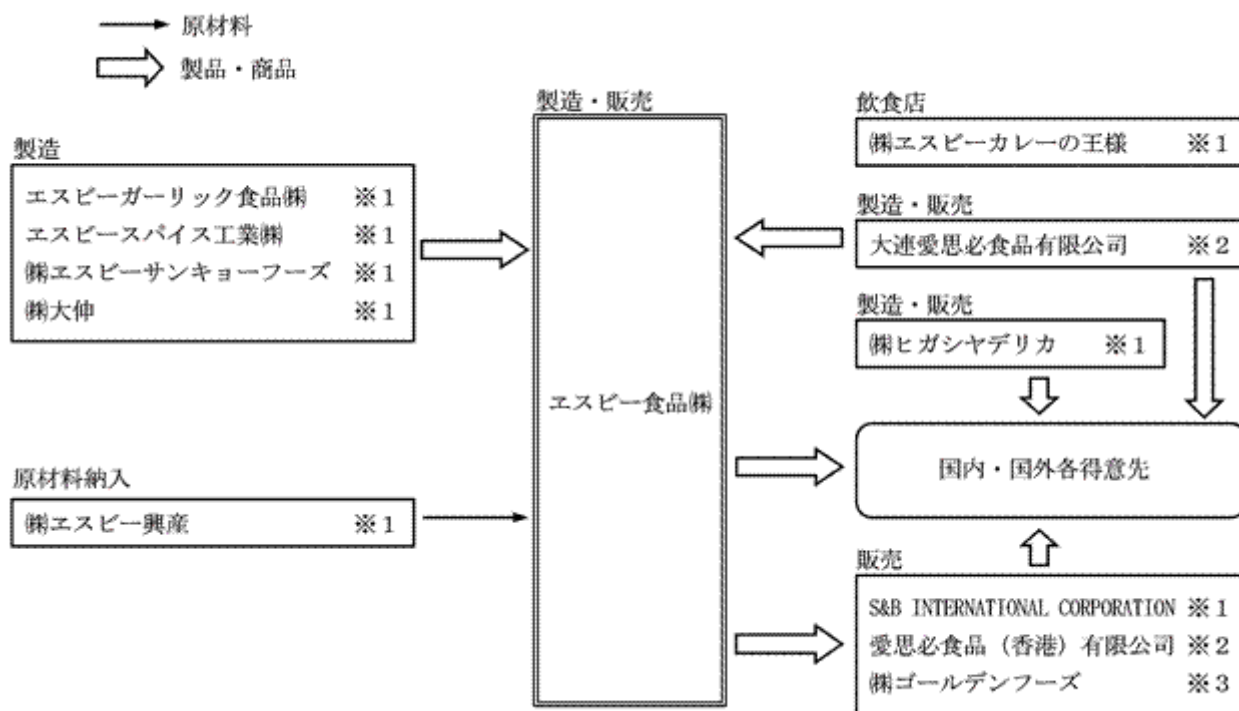
・販売関係

S&B INTERNATIONAL CORPORATIONは米国で、また、愛思必食品（香港）有限公司は中国で加工食品の販売を行っており、当社より商品を提供しております。また、株式会社ゴールデンフーズは、当社の業務用製品を販売しております。このほか、大連愛思必食品有限公司は、中国で加工食品の販売を行っております。

(2) その他

株式会社ヒガシヤデリカは調理済食品の製造・販売を行っております。また、株式会社エスピーカレーの王様は、外食事業としてカレーショップ等飲食店の経営を行っております。

上記の状況について事業系統図を示すと次の通りであります。



- (注) 1 連結子会社
 2 非連結子会社で持分法非適用会社
 3 関連会社で持分法適用会社

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有 割合又は被所有 割合(%)	関係内容
(連結子会社) エスピーガーリック 食品(株)	栃木県足利市	89	食料品事業	100	商品を当社に納入している。 役員の兼任等あり。 資金援助あり。 当社は機械装置、事務所を貸 与している。
エスピースパイス工 業(株)	東京都文京区	32	食料品事業	100	商品を当社に納入している。 資金援助あり。 当社は機械装置、事務所を貸 与している。
(株)エスピー興産 (注)2	東京都中央区	50	食料品事業	100	原材料を当社に納入してい る。 役員の兼任等あり。 資金援助あり。 当社は事務所を貸与してい る。
(株)エスピーサン キョーフーズ	静岡県焼津市	10	食料品事業	100	商品を当社に納入している。 役員の兼任等あり。 資金援助あり。 当社は機械装置を貸与してい る。
(株)大伸 (注)3	埼玉県比企郡川 島町	10	食料品事業	100 (100)	商品を当社に納入している。 当社は機械装置を貸与してい る。
(株)エスピーカレーの 王様	東京都中央区	40	その他	100	資金援助あり。 役員の兼任等あり。 当社は事務所を貸与してい る。
(株)ヒガシヤデリカ	東京都板橋区	80	その他	100	当社は土地を貸与している。 役員の兼任等あり。
S&B INTERNATIONAL CORPORATION	アメリカ合衆国 カリフォルニア 州	100千US\$	食料品事業	100	当社製品を北米で販売してい る。 役員の兼任等あり。
(持分法適用関連会 社) (株)ゴールデンフーズ (注)3,4,5	東京都板橋区	10	食料品事業	14.9 (5.3) [12.3]	当社の業務用製品を販売して いる。 資金援助あり。

- (注)1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。
 2. 特定子会社に該当いたします。
 3. 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数であります。
 4. 議決権の所有割合の[]内は、緊密な者または同意している者の所有割合で外数であります。
 5. 持分は100分の20未満ではありますが、実質的な影響力を持っているため関連会社としております。
 6. 上記連結子会社はいずれも、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合がそれぞれ100分の10以下であるため、主要な損益情報等の記載を省略しております。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
食料品事業	1,527 (458)
その他	114(476)
合計	1,641(934)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
 2. 従業員は正社員及び嘱託契約の社員であり、臨時雇用者はパートタイマー及び派遣社員であります。

(2) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,219(242)	42.0	16.8	6,107,043

セグメントの名称	従業員数(人)
食料品事業	1,219 (242)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
 2. 従業員は正社員及び嘱託契約の社員であり、臨時雇用者はパートタイマー及び派遣社員であります。
 3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

当社及び連結子会社(以下「当社グループ」といいます。)の労働組合のうち主なものはエスピー食品従業員組合(平成24年3月31日現在組合員数700人)であります。

なお、労働組合との間に特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響から徐々に持ち直してまいりましたが、欧州の債務危機や円高の進行、原油などの原材料価格の高騰により、先行き不透明な状況に終始いたしました。

食品業界におきましては、お客様の節約志向が依然として続くなかで、大震災による影響もあり、食の安全・安心とともに、価格を含めた製品価値に対するお客様のご要望への対応が求められました。

このような状況のなかで、当社、連結子会社及び持分法適用会社は、企業理念「真の顧客満足の追求」のもと、お客様の視点に立って、強みでありますスパイスとハーブを核とした事業活動を推進してまいりました。新たな価値の訴求や創造をテーマにした製品開発を積極的に行うとともに、レシピ提案などを通じて、おいしさや楽しさを広げる食の総合的なプロモーションを展開してまいりました。また、安全・安心な製品をお届けいたしますため、生産履歴に関する情報システムの充実や生産現場での作業品質の向上など、安全・安心を支える体制の一層の強化を進めてまいりました。特に、製品の安定供給に努め、食品メーカーとしての社会的使命を果たすべく活動してまいりました。

経営管理面におきましては、昨年6月の定時株主総会後に経営体制を刷新いたしますとともに、社内コミュニケーションの活性化を図り、変化の激しい環境に迅速かつ柔軟に対応できる体制の構築に努めてまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は前年同期比6億58百万円増の1,273億81百万円（前年同期比100.5%）となりました。一方、利益面におきましては、原材料価格の影響による売上原価率の上昇や競争激化に伴う販売促進費等の増加により、営業利益は前年同期比11億73百万円減の41億78百万円（同78.1%）、経常利益は前年同期比5億18百万円減の41億28百万円（同88.8%）となりましたが、当期純利益は、法人税率の引下げに伴う繰延税金資産の取崩しによる影響がありましたものの、投資有価証券評価損が減少したことなどから、前年同期比46百万円増の12億96百万円（同103.8%）となりました。

セグメント別・製品区分別の状況は、以下の通りであります。

なお、各セグメントの売上高は、セグメント間内部売上高消去後の数値を記載しております。

食料品事業

<スパイス&ハーブ>

「SPICE & HERB」シリーズをはじめとする洋風スパイスは、引き続きシェアを伸ばいたしました。また、「マジックソルト」などのシーズニングスパイスや業務用香辛料製品、そしてフレッシュハーブも売上に寄与いたしましたことから、売上高は前年同期比4億3百万円増の198億60百万円となりました。

<即席>

主力製品の「とろける」シリーズは、「とろけるこいカレー」などがご好評をいただきましたことから、売上を伸ばしました。また、濃厚な味わいが特徴の新製品「濃いシチュー」が、お客さまの幅広いご支持をいただきましたことから、売上高は前年同期比13億11百万円増の340億4百万円となりました。

<香辛調味料>

チューブ製品におきましては、お徳用タイプが引き続き伸びいたしますとともに、「本生」シリーズや「風味推薦」シリーズも堅調に推移いたしました。また、中華調味料の李錦記ブランド製品も売上に貢献いたしました。ラー油関連製品が前年同期実績の反動もありましたことから、売上高は前年同期比10億83百万円減の290億92百万円となりました。

<インスタント食品その他>

「なっとく」ブランド製品におきましては、レトルトカレーが堅調に推移いたしますとともに、新製品のドリアソースやパスタソースが売上に寄与いたしました。また、アネージブランドのパスタも売上に貢献いたしました。一方で、東日本大震災により当社の主力工場が生産を一時停止した影響から、無菌包装米飯類の売上が減少いたしましたため、売上高は前年同期比2億13百万円減の347億94百万円となりました。

以上の結果、食料品事業の売上高は、前年同期比4億18百万円増の1,177億52百万円（同100.4%）となりました。なお、セグメント利益（営業利益）は前年同期比11億47百万円減の40億6百万円（同77.7%）となりました。

その他

調理麺が好調に推移するなど、調理済食品が前年同期実績を上回りましたことから、その他の売上高は、前年同期比2億40百万円増の96億28百万円（同102.6%）となりました。なお、セグメント利益（営業利益）は前年同期比24百万円減の1億26百万円（同83.7%）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」といいます。）は、投資活動及び財務活動により減少したものの営業活動により増加し、前連結会計年度末に比べ15億12百万円増加して、当連結会計年度末には154億27百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次の通りであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は、37億31百万円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益36億19百万円に対し、売上債権の増加による資金の減少16億61百万円、法人税等の支払額13億84百万円などがあったものの、減価償却費26億88百万円などがあったことによるものであります。

前年同期と比較して獲得資金は66百万円増加いたしました。この要因は主に、投資有価証券評価損の計上の減少（13億50百万円）、売上債権の増加による資金の減少（13億2百万円）、仕入債務の増加による資金の増加（16億4百万円）、法人税等の支払額の減少による資金の増加（11億50百万円）による影響であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、14億9百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出16億87百万円、貸付金の貸付・回収に伴う差引収入額4億2百万円によるものであります。

前年同期と比較して使用資金は19億5百万円減少いたしました。この要因は主に、貸付金の貸付・回収に伴う差引支出額の減少（19億53百万円）による影響であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、8億9百万円となりました。これは主に、借入金の借入・返済に伴う差引支出額2億6百万円、配当金の支払額4億87百万円によるものであります。

前年同期と比較して使用資金は1億87百万円増加いたしました。この要因は主に、借入金の借入・返済に伴う差引収入額の減少（1億36百万円）による影響であります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次の通りであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前年同期比(%)
食料品事業(百万円)	88,843	104.8
その他(百万円)	9,097	103.4
合計(百万円)	97,940	104.6

(注)金額は販売価格(消費税等抜き)によっております。

(2) 商品仕入実績

当連結会計年度における商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次の通りであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前年同期比(%)
食料品事業(百万円)	16,527	92.3
その他(百万円)	-	-
合計(百万円)	16,527	92.3

(注)金額は商品仕入価格(消費税等抜き)によっております。

(3) 受注状況

主要製品の受注生産を行っていないため、記載を省略しております。

(4) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次の通りであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前年同期比(%)
食料品事業(百万円)	117,752	100.4
その他(百万円)	9,628	102.6
合計(百万円)	127,381	100.5

(注)1.セグメント間の取引については相殺消去しております。

2.最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次の通りであります。

相手先	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
三菱食品(株)	23,660	18.7	28,520	22.4
三井物産(株)	24,631	19.4	24,570	19.3
国分(株)	19,804	15.6	17,766	13.9

3.金額には消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

(1) 対処すべき課題

企業理念として掲げました「真の顧客満足の追求」とは、お客様にとっての価値を知り、それに応え続けることであります。そこで、お客様より寄せられます「お客様の声」を企業の財産とし、より耳を傾け、製品やサービスに反映させるなど、あらゆる面でおお客様の視点に立った活動を継続してまいります。

「S P I C E & H E R B」というコーポレートシンボルのもと、スパイスとハーブに特化を図りつつ、強みをさらに伸ばし、企業全体の再構築を進めてまいります。また、スパイスとハーブの魅力を従業員が直接地域の皆様にお伝えする地道な活動を通じて、スパイスとハーブに関する情報発信を行ってまいります。

製品の安全・安心対策では、引き続き品質管理の徹底を行いますとともに生産履歴（トレーサビリティ）を確保する情報のシステム化をさらに進めていくなかで、検査体制の一層の充実にも努めてまいります。

経営管理面におきましては、執行役員制度を活用し、取締役と執行役員の役割を明確にし、経営全般のスピードアップとコーポレート・ガバナンスの強化を図り、もって経営環境の変化に迅速かつ確に対応いたしますとともに、取締役会のもと、内部監査室の機能を発揮させて内部統制システムの充実・強化に取り組んでまいります。

企業の社会的責任に関しましては、皆様の食生活を担う食品企業として、当社グループならではの優れた品質で、かつ安全で安心いただける製品の提供に努め、さらに皆様のご信頼とご支持を得て、社会とともに持続可能な企業であり続けられますよう、法令順守は勿論のこと企業倫理、社会貢献活動などへの取組みに最善の努力をいたしたいと考えております。

自然の恵みによって得られるスパイスとハーブをお客様にお届けする当社グループといたしましては、地球環境保全を重要課題の一つと認識し、「環境方針」を策定し、環境に配慮した生産体制の整備や製品の開発・改良をはじめ企業活動全般から生じる環境への負荷の低減に努めてまいります。

先行き不透明でかつ変化の激しい時代環境下において、既存概念にとらわれることなく全社全部門でさらなる生産性の向上を積極的に進め、変化に迅速かつ柔軟に対応できる企業体質の構築に取り組んでまいりたいと考えております。

(2) 株式会社の支配に関する基本方針

基本方針の内容

当社は、当社株式の大規模買付行為が行われる場合において、その買付けに応じるか否かのご判断については、最終的には株主の皆様にご委ねられるべきものと考えております。また、経営支配権の異動に伴う企業価値向上の可能性についても、これを一概に否定するものではありません。しかしながら、大規模買付行為のなかには、その目的等から判断して、企業価値または株主共同の利益を損なうおそれがあるものも少なくありません。

当社の企業価値または株主共同の利益は、創業の理念や企業理念に基づく企業活動とそれを可能ならしめる経営体制や企業文化・組織風土等が一体となって、すべてのステークホルダーのご理解やご協力といった基盤のうえで形付けられるものであります。このような当社の企業価値を構成するさまざまな要素への理解なくして、当社の企業価値または株主共同の利益が維持されることは困難であると考えております。

当社は、当社株式の適切な価値を株主及び投資家の皆様にご理解いただけるよう、適時・適切な情報開示に努めておりますが、突然に大規模買付行為がなされる場合には、株主の皆様が当社株式の継続保有を検討するうえで、かかる買付行為が当社に与える影響や大規模買付者が当社の経営に参画した場合の経営方針、事業計画、各ステークホルダーとの関係についての考え方、さらに、当社取締役会の大規模買付行為に対する意見等の情報は、株主の皆様にとって重要な判断材料になるものと考えております。また、大規模買付者の提示する当社株式の買付価格が妥当なものであるかを比較的短期間のうちに判断をする株主の皆様にとっては、大規模買付者及び当社の双方から適切かつ十分な情報が提供されることが重要と考えております。

こうした考え方のもと、当社は、株主の皆様が当社株式の大規模買付行為に応じるか否かを適切にご判断いただく機会を提供し、あるいは当社取締役会が株主の皆様にご代替案を提示するために必要な情報や時間を確保すること、及び、当社の企業価値または株主共同の利益に反するような大規模買付行為を抑止するため、一定の場合には企業価値または株主共同の利益を守るために必要かつ相応な措置をとることが、株主の皆様から経営を付託される当社取締役会の当然の責務であると考えております。

基本方針実現のための取組み

ア．基本方針の実現に資する特別な取組み（企業価値向上のための取組み）

食品業界においては、食の安全・安心、少子高齢化、環境問題といったさまざまな課題があります。こうしたなかで、当社は「SPICE & HERB」のコーポレートシンボルのもと、自然の恵みであるスパイスとハーブを事業の核として、お客様にとって安らぎと潤いのある生活をご提案してまいりました。

当社におけるスパイスとハーブを核とした事業は、自然の恵みであるスパイスとハーブが自然志向、健康志向のなかでその機能が注目を集め、その将来性が大いに期待されることです。

健康的な食生活をサポートする製品の提供と食の安全性や環境に配慮した生産体制を追求している当社にとっては、こうした事業の方向性を強化していくことで、広く社会に受け入れられる企業としてご評価いただき成長することができるものと考えております。

そして、スパイスとハーブを核とした事業を推進するなかで、当社の強みをさらに強みとして高めていくことが、当社の企業価値または株主共同の利益の一層の向上に繋がっていくものと考えております。

イ．基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、上記に記載の基本方針に基づき、当社の企業価値または株主共同の利益を確保し、向上させることを目的として、平成20年6月27日開催の第95期定時株主総会における関連議案のご承認をもって、「当社株式の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）」を導入し、平成23年6月29日開催の第98期定時株主総会において、近時の諸環境の変化を踏まえて一部変更の上、更新いたしました。（以下、更新後の買収防衛策を「本プラン」といいます。）

本プランは、当社の企業価値または株主共同の利益を確保し、向上させることを目的とするものであり、大規模買付ルールと、大規模買付行為が行われた場合に当社が講じる対抗措置の手続き及び内容を定めております。

なお、大規模買付行為が行われた場合に当社が講じる対抗措置につきましては、当社の企業価値または株主共同の利益を守るため、必要かつ相当な範囲で新株予約権の無償割当てを行うものであります。

本プランの詳細及び用語の定義につきましては、当社ホームページ（URL <http://www.sbfoods.co.jp/company/ir/plan.html>）をご覧ください。

上記各取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

ア．基本方針の実現に資する特別な取組みについて

企業価値向上のための取組みやコーポレート・ガバナンスの強化といった各施策は、当社の企業価値または株主共同の利益を持続的に向上させるために策定されたものであり、まさに基本方針の実現に資するものであります。

従いまして、これらの各施策は、基本方針に従い、当社の株主共同の利益に合致するものであり、当社の会社役員としての地位の維持を目的とするものではありません。

イ．基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みについて

本プランは、当該大規模買付行為に応じるか否かを株主の皆様が判断する、あるいは当社取締役会が株主の皆様が代替案を提示するために必要な時間や情報を確保するとともに、株主の皆様のために大規模買付者と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値または株主共同の利益を確保するための枠組みであり、基本方針に沿うものであります。

また、本プランは、以下の理由により、当社の株主共同の利益を損なうものではなく、当社の会社役員としての地位の維持を目的とするものではありません。

- ・ 経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針の定める三原則を充足しており、また、企業価値研究会が平成20年6月30日に発表した「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」を勧告した内容となっております。
- ・ 平成23年6月29日開催の第98期定時株主総会における、大規模買付ルールを遵守しない場合の対抗措置としての新株予約権無償割当てに関する事項の決定を取締役に委任する旨の議案の承認決議をもって本プランに更新しております。
- ・ 大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合で、当社取締役会が、大規模買付行為が当社の企業価値または株主共同の利益を損なうおそれがあるものとして、対抗措置を発動する必要があると判断した場合は、大規模買付行為に対し対抗措置を発動するか否かの判断を株主の皆様に行っていただくために、株主総会を開催するものとしております。
- ・ 当社取締役会により、いつでも廃止することができることから、デッドハンド型買収防衛策（取締役の構成員の過半数を交替させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。なお、当社において取締役の期差任期制は採用していません。

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 原材料の調達

当社グループの製品の原材料は多岐に渡っているため、通常は特定の原材料の市況変動等が当社グループの業績に与える影響は大きくありません。

ただし、世界的な需給バランスの変化や不作、また、調達国における法律等の変更や政治的混乱等により原材料の大幅な価格上昇や調達量不足が生じた場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 自然災害等

当社グループでは、当社上田工場、東松山工場、宮城工場等の生産工場を有しております。大地震や台風といった自然災害等の緊急事態に備え防災マニュアルを整備し、これに基づき対処する体制をとっておりますが、設備の重大な被害、原材料のサプライチェーン及び社会インフラ等の問題により生産に支障をきたした場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 法的規制等

当社グループは、食品衛生法、農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律（JAS法）、不当景品類及び不当表示防止法、環境・リサイクル関連法規等の法的規制を受けております。当社グループにおいては、これらの法的規制等を順守すべく体制の整備を図っておりますが、これらの法的規制が強化または現時点において予期し得ない法的規制等が設けられた場合、当社グループの活動が制限される可能性があり、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 食の安全性の問題

当社グループにおいては、製品の安全・安心を経営の重要課題と捉え、原資材調達及び生産・流通の各段階において食の安全性や品質を確保するため、ISO9001及びHACCPの管理手法を取り入れた品質管理体制の整備拡充を進めるとともに、生産履歴に関する情報管理システムのさらなる充実に努めております。また、放射性物質に関して本年4月から適用されている国の基準値に則り、自社にて基準値を設け、国産原料を主とする製品を中心に放射性物質の測定を行っております。

ただし、食の安全性や品質に係る社会的な問題等、このような取組みの範囲を超えた事象が発生した場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 情報及び情報システム

当社グループは、販売、生産、開発その他の業務をコンピューターによる情報システムによって管理しております。これらの情報システムを保護するため、さまざまな対策を講じるとともに、これらの情報システムによるさまざまな情報を保護するため、「会社情報取扱規程」、「情報セキュリティ管理規程」等の社内規程を制定し、これらの社内規程に基づき情報の管理を行っております。

しかしながら、想定を超えた不正アクセスやコンピューターウイルスの感染などにより、情報システムに障害が発生する可能性や情報流出の被害を受ける可能性があります。このような事態が発生した場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 有利子負債

当社グループの前連結会計年度末及び当連結会計年度末現在の有利子負債の状況は、下記の通りであります。

引き続き、有利子負債の削減による財務体質の強化に努める方針であります。急速かつ大幅な金利変動があった場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額（百万円）	構成比（％）	金額（百万円）	構成比（％）
有利子負債	36,552	38.5	36,577	37.7
負債純資産合計	94,970	100.0	97,142	100.0

(7) 投資有価証券

当社グループは、長期的な取引関係維持のために主要取引先の株式を所有しており、前連結会計年度末及び当連結会計年度末現在の投資有価証券の状況は下記の通りであります。

今後、株式相場の状況によっては、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
投資有価証券	4,280	4.5	4,573	4.7
上記のうち評価差額	329	0.3	629	0.6
総資産額	94,970	100.0	97,142	100.0

(8) 得意先の経営状態による影響

当社グループでは、債権保全のため情報収集や与信管理を徹底し、債権の回収不能という事態の未然防止に注力しております。

しかしながら、このような取組みの範囲を超える予期せぬ得意先の経営状態の悪化が生じた場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 退職給付会計

退職給付費用及び債務は、退職給付会計基準や関連する実務指針等に従い計算を行っておりますが、計算にあたっては数理計算上使用するさまざまな基礎率を使用しております。会計基準や基礎率等、計算の前提条件が変更になった場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 繰延税金資産

当社グループは繰延税金資産について、その回収可能性が低いと判断した場合は対象となる金額を控除しております。今後、業績の動向等により控除する金額が増加した場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、税率の変更を伴う税制の改正等があった場合には、法定実効税率の変動による繰延税金資産の増減が生じ、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 減損会計

当社グループは、継続的に収支の把握がなされている単位を基礎として資産のグルーピングを行い減損の判定を行っております。販売の不振、地価の下落等により減損損失の計上が必要となった場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社グループは、マーケティング活動の原点を企業理念である「真の顧客満足の追求」におき、社会環境の変化や健康志向・本物志向・簡便志向など、お客様の意識の変化を捉えながら、新技術や新素材等の基礎研究から応用研究まで幅広い活動を展開しております。

(主な研究開発)

主要原料であるスパイスとハーブについては、安全・安心の確保と安定供給を目標として、遺伝子レベルの解析、育種・栽培技術の研究による品質向上や改良・改善を進めるとともに、さまざまな用途の開発及び機能性の研究に力を注いでおります。

食品加工技術としては、粉体加工技術、液体・粘体加工技術、微生物制御管理技術、無菌化包装とその発展技術等の研究を進めております。

また、環境やユニバーサルデザイン等に配慮した容器包装の研究や、多種多様な食品成分の機器分析研究にも取り組んでおります。

この結果、当連結会計年度の当社グループの研究開発費の総額は、8億23百万円となりました。

なお、セグメント別の研究開発費の金額は、食料品事業 7億69百万円、その他54百万円であります。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。当社グループの連結財務諸表作成において判断や見積りを要する重要な会計方針等につきましては、過去の実績等合理的と考えられる前提に基づき判断し、見積りを実施しておりますが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は異なる場合があります。

詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、概ね「1 業績等の概要」に記載しておりますが、その主な要因等は次の通りであります。

売上高

売上高は、前年同期比6億58百万円増の1,273億81百万円（前年同期比100.5%）となりました。これは、主に「食料品事業」が好調に推移したことによるものであります。

セグメント別の状況につきましては、「1 業績等の概要」をご参照ください。

営業利益

原材料価格の影響により、売上原価の売上高に対する比率が56.6%（前年56.1%）に増加した結果、売上総利益は前年同期比4億11百万円減の552億26百万円（前年同期比99.3%）となりました。

また、販売費及び一般管理費につきましては、販売促進費等が増加したことなどにより、売上高に対する比率が40.1%（前年39.7%）に増加した結果、営業利益は前年同期比11億73百万円減の41億78百万円（前年同期比78.1%）となりました。

経常利益

営業外損益につきましては、金融収支に関し受取利息が前年同期比6百万円増の91百万円、受取配当金が前年同期比7百万円増の1億13百万円、支払利息が前年同期比8百万円減の6億62百万円となりましたが、貸倒引当金の戻入2億53百万円などがあったことから49百万円の損失となりました。なお、前年同期と比較して損失が6億54百万円減少したことから、経常利益は前年同期比5億18百万円減の41億28百万円（同88.8%）となりました。

当期純利益

特別損益につきましては、特別利益が76百万円発生しましたが、減損損失などの特別損失が5億86百万円発生したことから、5億9百万円の損失となりました。なお、投資有価証券評価損が減少したことなどから、税金等調整前当期純利益は前年同期比6億41百万円増の36億19百万円（同121.6%）となりました。

また、税効果会計適用後の法人税等の負担率は64.2%（前年58.0%）となり、当期純利益は前年同期比46百万円増の12億96百万円（前年同期比103.8%）となりました。

(3) 財政状態の分析

資産は、前連結会計年度末と比較して21億71百万円増加し、971億42百万円となりました。これは主に、繰延税金資産の減少10億3百万円などがあったものの、現金及び預金の増加15億2百万円、売上債権の増加16億61百万円などがあったことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比較して9億69百万円増加し、690億23百万円となりました。これは主に、仕入債務の増加4億14百万円などがあったことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比較して12億2百万円増加し、281億18百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加8億13百万円及びその他有価証券評価差額金の増加2億10百万円などがあったことによるものであります。この結果、自己資本比率は28.9%となりました。

(4) キャッシュ・フローの状況の分析

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの概要については、「1 業績等の概要」に記載した通りであります。

翌連結会計年度については、営業キャッシュ・フローの獲得により設備投資等必要資金をまかなうことを予定しておりますが、現状の現金及び現金同等物の水準と今後見込まれる営業キャッシュ・フローから、十分な流動性を確保していると判断しております。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループでは、上田、東松山、宮城の当社3工場を中心とした製品の安全・安心対策、品質の安定・向上、生産性の向上を目的とした設備の更新・改良などにより総額21億13百万円の設備投資を行いました。

食料品事業においては、当社上田工場・東松山工場の生産設備の更新・改良を中心に16億33百万円、その他においては、㈱ヒガシヤデリカ東松山工場の生産設備の更新・改良を中心に4億79百万円の設備投資を行いました。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

(注) 文章中の金額には、消費税等は含まれておりません。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次の通りであります。

(1) 提出会社

平成24年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額				従業員数 (人)	
			建物及び 構築物 (百万円)	機械装置及 び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	その他 (百万円)		合計 (百万円)
東松山工場 (埼玉県東松山市)	食料品事業	香辛料他生産 設備	901	958	1,056 (21,540.08)	26	2,942	136 (80)
上田工場 (長野県上田市)	食料品事業	即席製品他生産 設備	1,299	860	975 (31,806.92)	12	3,148	185 (49)
宮城工場 (宮城県登米市)	食料品事業	加工米飯生産 設備	998	399	931 (34,741.85)	8	2,338	77 (9)
本社 (東京都中央区)	食料品事業	統括業務設備	833	10	398 (340.18)	535	1,778	58 (1)
八丁堀ハーブテラス (東京都中央区)	食料品事業	統括業務設備 ・販売設備	1,106	33	771 (641.80)	35	1,947	113 (4)
板橋スパイスセンター (東京都板橋区)	食料品事業	統括業務設備 ・研究開発設 備・販売設備	1,101	0	1,391 (4,744.99)	195	2,689	304 (70)

(2) 国内子会社

平成24年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額				従業員数 (人)	
				建物及び 構築物 (百万円)	機械装置及 び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	その他 (百万円)		合計 (百万円)
エスピーガーリック 食品㈱	高田工場(新潟県上越市)	食料品事業	即席製品他 生産設備	498	438	161 (75,194.57)	17	1,115	112 (9)
エスピースパイス 工業㈱	埼玉工場(埼玉 県北葛飾郡 松伏町)	食料品事業	香辛料他生産 設備	769	614	54 (16,306.17)	12	1,451	104 (92)
㈱ヒガシヤデリカ	北関東工場 (群馬県太田 市)	その他	調理済食品 生産設備	679	315	821 (11,597.22)	91	1,908	42 (186)
㈱ヒガシヤデリカ	東松山工場 (埼玉県東松 山市)	その他	調理済食品 生産設備	482	329	419 (16,113.06)	143	1,374	52 (254)

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は工具、器具及び備品・リース資産であり、建設仮勘定を含んでおります。

2. 金額には消費税等は含まれておりません(建設仮勘定を除く)。

3. 従業員数の()内は臨時従業員で外数となっております。
4. 板橋スパイスセンターにおいては、上記のほか、連結会社以外の者より、土地4,311.75㎡を賃借しております。
5. エスビーガーリック食品(株)の高田工場内には、提出会社から貸与中の機械装置0百万円を含んでおります。
6. エスビースパイス工業(株)の埼玉工場内には、提出会社から貸与中の機械装置0百万円を含んでおります。
7. (株)ヒガシヤデリカの北関東工場の土地はすべてエスビーガーリック食品(株)からの貸与であり、東松山工場の土地はすべて提出会社からの貸与であります。

3【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在において、設備の新設、除却等についての重要な事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	88,000,000
計	88,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成24年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年6月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	34,885,585	34,885,585	東京証券取引所市場第二部	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は500株であります。
計	34,885,585	34,885,585	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成3年5月21日	3,171,416	34,885,585	158	1,744	158	5,343

(注) 資本準備金の資本組入れ

無償 株主割当 1:0.1

発行価格 50円 資本組入額 50円

(6)【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数500株)							計	単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	20	10	167	7	3	5,278	5,485	-
所有株式数 (単元)	-	22,947	220	28,937	19	3	17,450	69,576	97,585
所有株式数の 割合(%)	-	32.98	0.32	41.59	0.03	0.00	25.08	100.00	-

(注) 自己株式62,099株は、「個人その他」に124単元及び「単元未満株式の状況」に99株を含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
峯栄興業株式会社	東京都千代田区神田神保町三丁目2番7号	3,045	8.73
山崎兄弟会	東京都中央区日本橋兜町18番6号	3,000	8.60
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	1,720	4.93
農林中央金庫	東京都千代田区有楽町一丁目13番2号	1,720	4.93
株式会社東京都民銀行	東京都港区六本木二丁目3番11号	1,222	3.50
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	904	2.59
セコム損害保険株式会社	東京都千代田区平河町二丁目6番2号	881	2.53
大日本印刷株式会社	東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号	861	2.47
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	622	1.78
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	611	1.75
計	-	14,588	41.82

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 62,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 34,726,000	69,452	-
単元未満株式	普通株式 97,585	-	-
発行済株式総数	34,885,585	-	-
総株主の議決権	-	69,452	-

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
エスピー食品株式会社	東京都中央区日本橋兜町 18番6号	62,000	-	62,000	0.18
計	-	62,000	-	62,000	0.18

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	1,207	864,699
当期間における取得自己株式	527	368,365

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (単元未満株式の売渡請求による売渡)	-	-	-	-
保有自己株式数	62,099	-	62,626	-

(注) 1. 当期間における処理自己株式には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれておりません。

2. 当期間における保有自己株式数には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

3【配当政策】

当社は、今後の事業展開に備え長期にわたる堅実な経営基盤の確保に努めますとともに、業績に裏付けられた成果を、株主の皆様への安定的な配当として維持、継続いたしますことを利益配分における基本方針といたしております。今後厳しさが増す経営環境に対処いたしますため、お客様にとって価値ある製品の開発や安全・安心な製品の生産体制の強化、供給体制の効率化などへの有効投資を前提に内部留保の充実に配慮し、経営体質の一層の強化を図り、株主の皆様のご期待に添うよう努めてまいります。

当社は、期末配当と中間配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

なお、当期の配当金につきましては、安定配当を基本として当期の業績と今後の経営展望を勘案し、また、1株当たり当期純利益の推移や配当性向などを考慮いたし、期末配当金を1株当たり7円とし、年間配当金は中間配当金7円を加えた14円といたしました。

当社は、「取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下の通りであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成23年11月2日 取締役会決議	243	7
平成24年6月28日 定時株主総会決議	243	7

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次 決算年月	第95期 平成20年3月	第96期 平成21年3月	第97期 平成22年3月	第98期 平成23年3月	第99期 平成24年3月
最高(円)	969	950	910	876	786
最低(円)	828	750	780	695	670

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所(市場第二部)におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	平成23年11月	平成23年12月	平成24年1月	平成24年2月	平成24年3月
最高(円)	727	705	698	700	707	739
最低(円)	696	680	670	674	676	690

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所(市場第二部)におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長		江戸 龍太郎	昭和27年6月12日生	昭和51年4月 当社入社 平成12年4月 管理本部シニアマネージャー 平成16年6月 執行役員 平成17年6月 代表取締役社長 平成20年10月 S&B INTERNATIONAL CORPORATION チェアマン(CEO)(現) 平成23年5月 株式会社ヒガシヤデリカ代表取締役 社長(現) 平成23年6月 取締役会長(現)	(注)4	24
代表取締役社長		山崎 雅也	昭和37年11月11日生	昭和63年4月 当社入社 平成15年5月 株式会社ヒガシヤデリカ代表取締役 社長 平成17年6月 執行役員 平成21年6月 専務取締役 平成23年6月 代表取締役社長(現)	(注)4	-
代表取締役副社長		山崎 明裕	昭和41年7月10日生	平成元年4月 株式会社三菱銀行入行 平成7年6月 当社入社 平成13年4月 営業本部長代理 平成15年6月 執行役員 平成17年6月 取締役 平成19年6月 取締役常務執行役員 平成21年6月 専務取締役 平成23年6月 代表取締役副社長(現)	(注)4	-
代表取締役		荻原 敏明	昭和23年4月5日生	昭和47年4月 当社入社 平成3年5月 マーケティング本部情報システム 部長 平成7年6月 取締役 平成13年6月 常務取締役 平成15年6月 取締役常務執行役員 平成21年6月 専務取締役 平成23年6月 代表取締役(現)	(注)4	14
専務取締役	首席執行役員 開発生産グ ループ管掌兼 品質保証室管 掌	佐藤 哲也	昭和26年10月11日生	昭和51年4月 当社入社 平成8年2月 マーケティング本部情報システム 部長 平成11年6月 取締役 平成13年6月 常務取締役 平成15年6月 取締役常務執行役員 平成23年6月 取締役首席執行役員 平成24年6月 専務取締役首席執行役員開発生産 グループ管掌兼品質保証室管掌 (現)	(注)4	14
取締役	執行役員管理 サポートグ ループ担当	小形 博行	昭和32年3月5日生	昭和54年4月 当社入社 平成20年4月 会計業務管理室長 平成21年6月 執行役員 平成23年6月 当社監査役(常勤) 平成24年6月 取締役執行役員管理サポートグ ループ担当(現)	(注)4	5
取締役	執行役員管理 サポートグ ループ担当	丹野 好生	昭和31年1月27日生	昭和53年4月 当社入社 平成20年4月 コーポレートデザインオフィス上 席マネージャー兼人事室長 平成21年6月 執行役員 平成24年6月 取締役執行役員管理サポートグ ループ担当(現)	(注)4	5
取締役		谷 修	昭和24年8月24日生	昭和58年4月 弁護士登録(第一東京弁護士会) 昭和58年4月 浅川法律事務所入所 平成4年10月 谷法律事務所設立(現在に至る) 平成16年6月 当社補欠監査役 平成18年4月 第一東京弁護士会副会長 関東弁護士会連合会常務理事 平成19年6月 当社監査役 平成24年6月 取締役(非常勤・社外取締役) (現)	(注)4	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役		小池 宗夫	昭和27年 5 月28日生	昭和50年 4 月 当社入社 平成12年 4 月 管理本部シニアマネージャー兼同 本部情報ユニットユニットマネー ジャー 平成16年 6 月 当社監査役(常勤)(現)	(注) 5	8
監査役		島田 和典	昭和31年 8 月26日生	昭和54年 4 月 当社入社 平成23年 4 月 供給本部上席マネージャー兼営業 管理室長兼同室営業推進ユニットユニッ トマネージャー 平成23年 6 月 執行役員 平成24年 6 月 当社監査役(常勤)(現)	(注) 6	5
監査役		松延 洋平	昭和10年11月26日生	昭和35年 4 月 農林省(現農林水産省)入省 昭和58年 7 月 同省食品流通局消費経済課長 昭和61年 6 月 国土庁官房審議官 昭和63年 3 月 農林水産省退官 昭和63年 7 月 財団法人食品産業センター専務理 事 平成11年 4 月 ジョージタウン大学法科大学院客 員教授 平成12年 6 月 愛媛大学地域共同研究センター客 員教授 平成14年 6 月 財団法人日本健康・栄養食品協会 理事 平成14年 6 月 当社監査役(現) 平成19年 7 月 コーネル大学終身評議員(現)	(注) 7	1
監査役		葛山 康典	昭和40年 7 月27日生	平成 5 年 4 月 早稲田大学工学部助手 平成 8 年 4 月 早稲田大学社会科学部専任講師 平成10年 4 月 早稲田大学社会科学部助教授 平成15年 4 月 早稲田大学社会科学部(現同大学 社会科学総合学院)教授(現) 平成22年 6 月 当社補欠監査役 平成24年 6 月 当社監査役(現)	(注) 6	-
計						77

- (注) 1. 山崎雅也氏の1,000千株及び山崎明裕氏の1,000千株は議決権の統一行使のため、山崎兄弟会に信託され、同会の名義で株主名簿に登録されております。
2. 谷修氏は会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
3. 松延洋平氏及び葛山康典氏は会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
4. 平成23年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
平成24年6月28日開催の定時株主総会で選任されました、小形博行氏、丹野好生氏及び谷修氏の任期は、当社定款の定めにより他の在任取締役の任期の満了する時までであります。
5. 平成24年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
6. 平成23年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
平成24年6月28日開催の定時株主総会で前任者の辞任により選任されました、島田和典氏及び葛山康典氏の任期は、当社定款の定めにより前任者の任期の満了する時までであります。
7. 平成21年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

8. 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役を1名選任しております。補欠監査役の略歴は以下の通りであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
鶴高 利行	昭和35年12月28日生	昭和62年10月 監査法人朝日新和会計社(現有限責任あずさ監査法人)入社 平成3年9月 公認会計士登録 平成5年4月 税理士登録 平成5年8月 鶴高公認会計士事務所設立(現) 平成23年7月 TFS国際税理士法人社員(現) 平成23年12月 日本公認会計士協会東京会 公認会計士たる監査役プロジェクトチーム副構成員長(現) 平成24年6月 当社補欠監査役(現)	-

(注) 鶴高利行氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役の要件を満たしております。

9. 当社では、意思決定・監督と執行を分離するため、執行役員制度を導入しております。執行役員は取締役兼務者3名を含め8名であります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制の概要、内部統制システム及びリスク管理体制の整備の状況

当社は監査役設置会社であり、かつ、「経営の意思決定及び監督機能」と「業務執行機能」を分離し、「経営の意思決定及び監督機能」は取締役会が担い、「業務執行機能」は執行役員が担う、執行役員制度を導入しております。

取締役会は、定例取締役会のほか、必要に応じて臨時に取締役会を開催し、経営における基本戦略の策定や、法令で定められた重要事項を決定するとともに、執行役員の業務執行状況についての報告体制を確立して、業務執行状況の監督に専念しております。

経営会議は、取締役会の事前審議機関として、経営に関わる重要事項を検討・審議し、取締役会に報告します。

執行役員は、毎月2回定期的に開催される執行役員会において、情報の共有化と業務執行の意思統一を図っております。

当社は、より効率的な経営管理体制を志向し、変化の激しい経営環境に迅速かつ的確に対応いたしますため、現在の体制を採用しております。「経営の意思決定及び監督機能」と「業務執行機能」を分離することにより、経営及び業務執行に関わる意思決定と業務執行のスピードアップが図られますとともに、監督機能を強化し、各々の権限と責任を明確にすることができると考えております。

なお、コーポレート・ガバナンスの一層の強化を図るため、平成24年6月28日開催の定時株主総会において、社外取締役を新たに選任いたしました。

内部統制システムに関しましては、当社「企業理念」と「行動規範」を精神的支柱とし、これらを全役職員に周知徹底させることが企業倫理、法令遵守あるいは企業の社会的責任の観点で重要であるとの認識から、これらをより一層推進させるなかで、事業経営の有効性と効率性を高め、財務報告の信頼性を確保し、事業経営に関わる法令や定款及び企業倫理の遵守を促し、また企業財産の保全が図られる企業体制の整備を図っております。

リスク管理に関しましては、リスク管理規程や防災マニュアル等のリスク管理に関わる規程・マニュアル類の整備充実を図り、これらを社内に公表するとともに全役職員に周知徹底しております。

緊急事態が発生した場合には、当該マニュアルに基づき対策本部を設置し、社長他担当役員が対策本部長に就任し、対策本部長のもと関係部門が一体となり対処することとしております。

また、当社は、経営上及び業務遂行上における諸問題に対し、社内に組織横断的な企業倫理委員会を設置するとともに、必要に応じて顧問弁護士などの外部専門家からアドバイス及び指導を受け、常に適法性をチェックする体制を構築し、コンプライアンスを重視した経営に努めております。

内部監査及び監査役監査の状況

内部監査体制としては、4名で構成する取締役会直属の内部監査室が全社横断的な監査を担当しております。また、監査役設置会社として社外監査役2名を含む監査役4名にて監査体制を構築しております。内部監査室と監査役は、毎月1回の定期的な会議を持ち内部監査の結果その他情報の共有化を図っております。監査役監査業務については、内部監査室を兼務する監査役スタッフが監査役監査業務を補助することで監査体制の充実に努めております。

監査役と会計監査人は、定期的な会合と必要に応じての臨時的な会合を持つなど、監査実施状況その他監査業務全般に係る問題について会計監査人から報告を受け、また監査役監査についての情報を提供するなど、情報交換を行っており、情報の共有化と相互連携の一層の強化を図っております。

社外取締役及び社外監査役

イ．社外取締役及び社外監査役の員数並びに当社との人的・資金的・取引関係その他の利害関係

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

なお、谷修氏、松延洋平氏及び葛山康典氏は、当社との間に特別の利害関係はありません。

ロ．社外取締役及び社外監査役が企業統治において果たす機能及び役割

社外取締役の谷修氏は、弁護士としての専門的な知識・経験等を有していることから、当社の経営全般に対する適切な助言をいただくため選任しております。独立・公正な立場からの発言をいただくことで、業務執行状況に対する監督機能の一層の強化を図っております。

社外監査役の松延洋平氏は、国内外の食品業界に対する高い見識を有していることから、適切な経営監視をしていただくため選任しております。社外監査役の葛山康典氏は、企業財務の専門家として高い見識を有していることから、適切な経営監視をしていただくため選任しております。独立性のある社外監査役を選任することで、経営監視機能における客観性及び中立性の確保に努めております。

八．社外取締役及び社外監査役の選任状況に関する当社の考え方

社外取締役及び社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準又は方針はないものの、選任にあたっては株式会社東京証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。

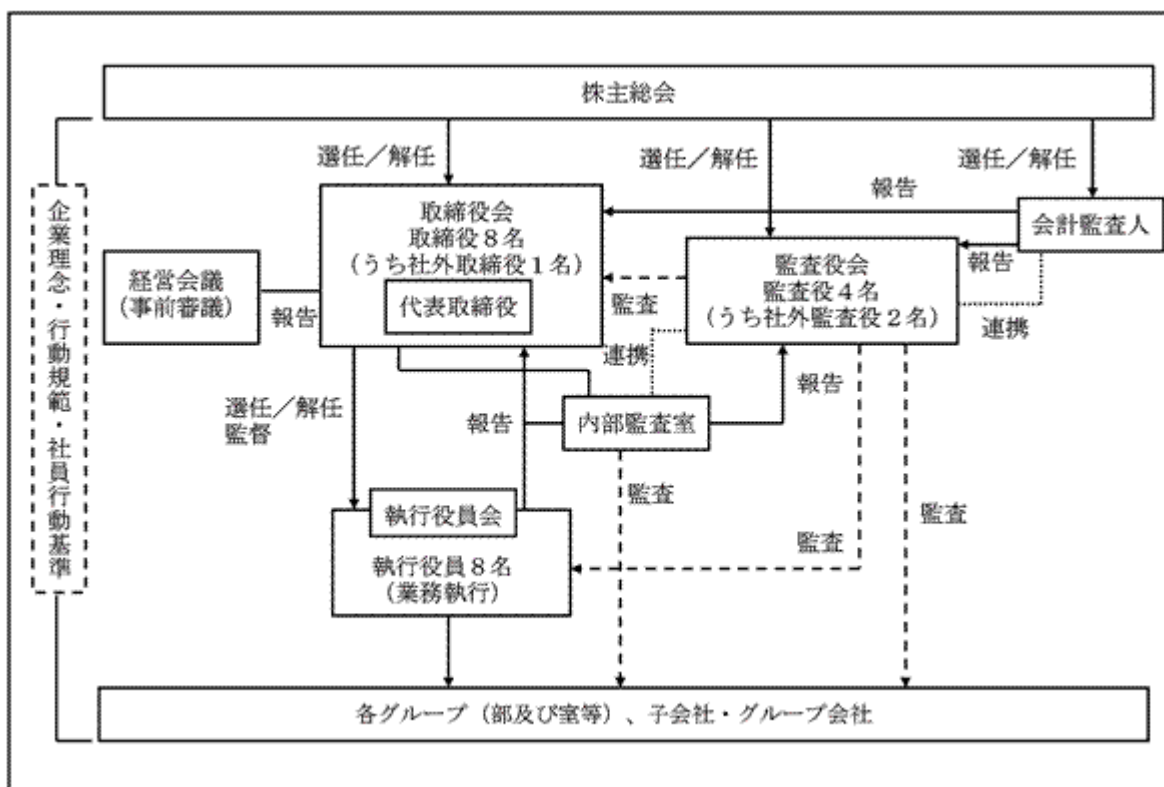
二．責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する額としております。

ホ．内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携ならびに内部監査室との関係

社外取締役は、取締役会での内部統制その他審議内容について、弁護士としての経験と知見に基づく発言を適宜行います。

社外監査役は、取締役会出席時に、またすべての取締役会及び執行役員会の審議内容の報告を受けて取締役の業務執行状況を把握するとともに、販売及び生産に係る管理状況を定期的に報告を受けることにより、監査意見を形成しております。また、監査役会その他の面談において監査の状況の報告を受け協議し、社外監査役の視点から情報を提供するなどにより常勤の監査役と相互に連携しております。内部統制監査の状況については定期的な報告と内部監査部門との面談により確認するとともに社外監査役の視点から助言を行うことにより内部監査について相互連携を図っております。会計監査の経過及び結果については、定期的な報告を受け、会計監査人と直接意見交換をするための機会の整備等を志向して相互連携に努めております。



役員報酬等

イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)		対象となる役員の員数(人)
		基本報酬		
取締役	233	233		8
監査役(社外監査役を除く。)	36	36		3
社外役員	9	9		2

ロ．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社の役員の報酬等の額は、それぞれ株主総会で決議いただいた総額の範囲内で、個々の役員の職務と責任及び実績に業績要素を加味し、各取締役分は代表取締役の協議に、また各監査役分は監査役の協議によって決定することとしております。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

80銘柄 4,313百万円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	2,747,580	1,055	金融取引の円滑化
(株)千葉銀行	699,284	325	金融取引の円滑化
加藤産業(株)	218,017	312	営業取引の維持・拡大
豊田通商(株)	220,200	302	仕入取引の円滑化
(株)東京都民銀行	215,296	232	金融取引の円滑化
(株)ADEKA	244,000	197	仕入取引の円滑化
(株)菱食	103,582	180	営業取引の維持・拡大
大日本印刷(株)	173,000	175	仕入取引の円滑化
(株)横浜銀行	260,379	102	金融取引の円滑化
中央三井トラス・ホールディングス(株)	300,000	88	金融取引の円滑化
(株)常陽銀行	235,452	76	金融取引の円滑化
伊藤忠食品(株)	24,865	69	営業取引の維持・拡大
日本製粉(株)	183,000	69	仕入取引の円滑化
(株)セブン&アイ・ホールディングス	22,713	48	営業取引の維持・拡大
(株)丸久	58,849	46	営業取引の維持・拡大
(株)三井住友フィナンシャルグループ	17,375	44	金融取引の円滑化
(株)トーカン	38,000	43	営業取引の維持・拡大
(株)みずほフィナンシャルグループ	308,030	42	金融取引の円滑化
(株)アサツー ディ・ケイ	17,653	39	営業取引の維持・拡大
(株)ゼンショー	41,600	34	営業取引の維持・拡大
(株)バロー	41,040	33	営業取引の維持・拡大
(株)マルエツ	107,694	32	営業取引の維持・拡大
(株)ファミリーマート	10,285	32	営業取引の維持・拡大
(株)日清製粉グループ本社	30,750	29	仕入取引の円滑化
三井物産(株)	19,472	29	営業取引の維持・拡大
(株)マルイチ産商	45,738	27	営業取引の維持・拡大
戸田建設(株)	75,891	24	施工建物の円滑な継続管理
みずほ信託銀行(株)	293,348	22	金融取引の円滑化
イオン(株)	21,000	20	営業取引の維持・拡大
(株)ライフコーポレーション	10,419	13	営業取引の維持・拡大

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	2,747,580	1,132	金融取引の円滑化
豊田通商(株)	220,200	371	仕入取引の円滑化
(株)千葉銀行	699,284	369	金融取引の円滑化
加藤産業(株)	218,017	356	営業取引の維持・拡大
三菱食品(株)	103,936	220	営業取引の維持・拡大
(株)東京都民銀行	215,296	214	金融取引の円滑化
(株)ADEKA	244,000	191	仕入取引の円滑化
大日本印刷(株)	173,000	146	仕入取引の円滑化
(株)横浜銀行	260,379	107	金融取引の円滑化
(株)常陽銀行	235,452	89	金融取引の円滑化
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	300,000	79	金融取引の円滑化
伊藤忠食品(株)	24,865	76	営業取引の維持・拡大
日本製粉(株)	183,000	69	仕入取引の円滑化
(株)みずほフィナンシャルグループ	466,437	62	金融取引の円滑化
(株)パロー	41,040	56	営業取引の維持・拡大
(株)トーカン	38,000	55	営業取引の維持・拡大
(株)セブン&アイ・ホールディングス	22,713	55	営業取引の維持・拡大
(株)三井住友フィナンシャルグループ	17,375	47	金融取引の円滑化
(株)丸久	58,849	46	営業取引の維持・拡大
(株)ゼンショーホールディングス	41,600	42	営業取引の維持・拡大
(株)アサツー ディ・ケイ	17,653	41	営業取引の維持・拡大
(株)ファミリーマート	10,285	35	営業取引の維持・拡大
(株)マルエツ	107,694	33	営業取引の維持・拡大
(株)日清製粉グループ本社	30,750	30	仕入取引の円滑化
(株)マルイチ産商	45,738	30	営業取引の維持・拡大
三井物産(株)	19,472	26	営業取引の維持・拡大
イオン(株)	21,000	22	営業取引の維持・拡大
戸田建設(株)	75,891	21	施工建物の円滑な継続管理
(株)ライフコーポレーション	10,419	14	営業取引の維持・拡大
(株)関西スーパーマーケット	14,699	10	営業取引の維持・拡大

八．保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに

当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額
該当事項はありません。

会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は以下の通りであり、その補助者として公認会計士7名とその他1名が会計監査業務に携わっております。

公認会計士の氏名	所属監査法人
國井 隆	日栄監査法人
腰越 勉	日栄監査法人

(注) 継続監査年数については、7年を超える者がいないため、記載を省略しております。

取締役の定数

当社の取締役は12名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び当該選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

その解任については、定款において別段の定めはありません。

自己株式取得の決定機関

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

これは、機動的な資本政策を可能とすることを目的とするものであります。

中間配当の決定機関

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	45	-	45	-
連結子会社	-	-	-	-
計	45	-	45	-

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度及び当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度及び当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬は、監査内容及び監査人員、監査時間等を勘案し決定することとしております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の財務諸表について、日栄監査法人による監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、また、会計基準等の変更等についての的確に対応するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準等の内容及び変更等について書籍等による最新の情報の収集に取組むとともに、各種セミナーや研修会への参加をしております。

1【連結財務諸表等】
 (1)【連結財務諸表】
 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,947	15,450
受取手形及び売掛金	23,599	25,261
商品及び製品	4,207	4,750
仕掛品	1,339	1,398
原材料及び貯蔵品	3,750	3,801
繰延税金資産	1,650	1,348
短期貸付金	6,750	6,902
その他	775	752
貸倒引当金	1,116	927
流動資産合計	54,903	58,737
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	30,875	30,819
減価償却累計額	20,217	20,743
建物及び構築物(純額)	10,657	10,075
機械装置及び運搬具	30,684	31,558
減価償却累計額	25,707	26,760
機械装置及び運搬具(純額)	4,976	4,798
工具、器具及び備品	4,075	4,304
減価償却累計額	2,854	3,059
工具、器具及び備品(純額)	1,220	1,245
土地	10,219	10,102
リース資産	358	693
減価償却累計額	89	201
リース資産(純額)	268	492
建設仮勘定	166	103
有形固定資産合計	27,509	26,817
無形固定資産		
のれん	26	22
リース資産	18	13
その他	509	547
無形固定資産合計	553	583
投資その他の資産		
投資有価証券	4,280	4,573
長期貸付金	2,709	2,155
繰延税金資産	3,247	2,545
その他	2,546	2,390
貸倒引当金	778	661
投資その他の資産合計	12,003	11,002
固定資産合計	40,067	38,404
資産合計	94,970	97,142

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,885	11,300
短期借入金	3 21,980	3 22,731
リース債務	85	132
未払金	8,497	9,106
未払法人税等	675	703
賞与引当金	1,184	1,168
資産除去債務	-	2
その他	954	1,261
流動負債合計	44,264	46,406
固定負債		
長期借入金	3 14,269	3 13,312
リース債務	216	401
再評価に係る繰延税金負債	2 1,552	2 1,345
退職給付引当金	6,002	6,068
債務保証損失引当金	218	343
資産除去債務	140	124
長期未払金	580	142
その他	808	880
固定負債合計	23,789	22,617
負債合計	68,053	69,023
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,744	1,744
資本剰余金	5,344	5,344
利益剰余金	23,793	24,606
自己株式	81	103
株主資本合計	30,800	31,592
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	194	405
土地再評価差額金	2 4,031	2 3,831
為替換算調整勘定	46	47
その他の包括利益累計額合計	3,883	3,473
純資産合計	26,916	28,118
負債純資産合計	94,970	97,142

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	126,722	127,381
売上原価	1 71,084	1 72,154
売上総利益	55,637	55,226
販売費及び一般管理費		
販売促進費	29,775	30,753
広告宣伝費	3,675	3,779
貸倒引当金繰入額	210	-
給料及び手当	4,139	4,073
賞与引当金繰入額	606	587
退職給付費用	663	652
減価償却費	650	620
その他	2 10,565	2 10,581
販売費及び一般管理費合計	50,285	51,047
営業利益	5,352	4,178
営業外収益		
受取利息	85	91
受取配当金	106	113
不動産賃貸料	52	46
貸倒引当金戻入額	-	253
その他	139	143
営業外収益合計	384	648
営業外費用		
支払利息	670	662
貸倒引当金繰入額	354	-
為替差損	29	1
その他	34	34
営業外費用合計	1,089	698
経常利益	4,647	4,128

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
特別利益		
貸倒引当金戻入額	5	-
債務保証損失引当金戻入額	35	-
受取補償金	6	59
補助金収入	-	9
その他	20	7
特別利益合計	68	76
特別損失		
固定資産除却損	3 87	3 48
減損損失	15	4 193
投資有価証券評価損	1,350	0
ゴルフ会員権評価損	-	36
貸倒引当金繰入額	35	26
債務保証損失引当金繰入額	-	124
災害による損失	5 48	5 32
事業整理損	-	6 96
その他	201	28
特別損失合計	1,738	586
税金等調整前当期純利益	2,977	3,619
法人税、住民税及び事業税	1,266	1,310
過年度法人税等	530	100
法人税等調整額	69	911
法人税等合計	1,727	2,322
少数株主損益調整前当期純利益	1,249	1,296
当期純利益	1,249	1,296

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	1,249	1,296
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	367	210
土地再評価差額金	-	204
為替換算調整勘定	14	0
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	353	414
包括利益	1,602	1,711
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,602	1,711
少数株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	1,744	1,744
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,744	1,744
資本剰余金		
当期首残高	5,343	5,344
当期変動額		
自己株式の処分	0	-
当期変動額合計	0	-
当期末残高	5,344	5,344
利益剰余金		
当期首残高	23,022	23,793
当期変動額		
剰余金の配当	487	487
当期純利益	1,249	1,296
土地再評価差額金の取崩	9	4
当期変動額合計	771	813
当期末残高	23,793	24,606
自己株式		
当期首残高	62	81
当期変動額		
自己株式の取得	1	0
持分法適用会社に対する持分変動に伴う 自己株式の増減	17	20
当期変動額合計	19	21
当期末残高	81	103
株主資本合計		
当期首残高	30,048	30,800
当期変動額		
剰余金の配当	487	487
当期純利益	1,249	1,296
自己株式の取得	1	0
自己株式の処分	0	-
持分法適用会社に対する持分変動に伴う 自己株式の増減	17	20
土地再評価差額金の取崩	9	4
当期変動額合計	752	791
当期末残高	30,800	31,592

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	173	194
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	367	210
当期変動額合計	367	210
当期末残高	194	405
土地再評価差額金		
当期首残高	4,022	4,031
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	9	199
当期変動額合計	9	199
当期末残高	4,031	3,831
為替換算調整勘定		
当期首残高	32	46
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	14	0
当期変動額合計	14	0
当期末残高	46	47
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	4,228	3,883
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	344	410
当期変動額合計	344	410
当期末残高	3,883	3,473
純資産合計		
当期首残高	25,820	26,916
当期変動額		
剰余金の配当	487	487
当期純利益	1,249	1,296
自己株式の取得	1	0
自己株式の処分	0	-
持分法適用会社に対する持分変動に伴う自己株式の増減	17	20
土地再評価差額金の取崩	9	4
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	344	410
当期変動額合計	1,096	1,202
当期末残高	26,916	28,118

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	2,977	3,619
減価償却費	2,742	2,688
減損損失	15	193
貸倒引当金の増減額（ は減少）	414	284
賞与引当金の増減額（ は減少）	27	15
退職給付引当金の増減額（ は減少）	292	65
債務保証損失引当金の増減額（ は減少）	35	124
受取利息及び受取配当金	192	205
支払利息	670	662
有形固定資産除却損	83	44
投資有価証券評価損益（ は益）	1,350	0
ゴルフ会員権評価損	-	36
事業整理損失	-	83
売上債権の増減額（ は増加）	359	1,661
たな卸資産の増減額（ は増加）	170	653
その他の資産の増減額（ は増加）	61	66
仕入債務の増減額（ は減少）	1,190	414
その他の負債の増減額（ は減少）	173	401
その他	158	4
小計	6,673	5,573
利息及び配当金の受取額	193	205
利息の支払額	668	662
法人税等の支払額	2,534	1,384
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,664	3,731
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,807	1,687
有形固定資産の売却による収入	29	22
無形固定資産の取得による支出	139	200
投資有価証券の取得による支出	16	1
投資有価証券の売却による収入	63	10
短期貸付金の純増減額（ は増加）	850	350
長期貸付けによる支出	1,525	720
長期貸付金の回収による収入	823	772
その他	106	45
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,315	1,409
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	745	380
長期借入れによる収入	5,527	3,805
長期借入金の返済による支出	4,851	4,391
配当金の支払額	487	487
その他	65	115
財務活動によるキャッシュ・フロー	622	809
現金及び現金同等物に係る換算差額	16	0
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	289	1,512
現金及び現金同等物の期首残高	14,203	13,914
現金及び現金同等物の期末残高	13,914	15,427

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数及び主要な連結子会社の名称

連結子会社の数 8社

主要な連結子会社の名称

エスピーガーリック食品(株)

エスピースパイス工業(株)

(株)エスピー興産

(株)エスピーサンキョーフーズ

(株)大伸

(株)エスピーカレーの王様

(株)ヒガシヤデリカ

S&B INTERNATIONAL CORPORATION

(2) 主要な非連結子会社の名称等

主要な非連結子会社の名称

大連愛思必食品有限公司

愛思必食品(香港)有限公司

非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社の数及び関連会社の名称等

持分法を適用した関連会社の数 1社

持分法を適用した会社の名称

(株)ゴールドデンフーズ

(2) 持分法を適用していない主要な非連結子会社及び関連会社の名称等

持分法を適用していない主要な非連結子会社及び関連会社の名称

大連愛思必食品有限公司

愛思必食品(香港)有限公司

これらの会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、エスピーガーリック食品(株)は12月31日、エスピースパイス工業(株)は2月末日、他の連結子会社6社は3月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては、それぞれの決算日の決算財務諸表を使用しておりますが、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行う方法によっております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

(イ) 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)によっております。

(ロ) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)によっております。

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

ロ たな卸資産

主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は定率法によっております。また、在外連結子会社は当該国の会計基準の規定に基づく定額法によっております。

ただし、当社及び国内連結子会社は、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物付属設備を除く）については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物及び構築物 2年～60年

機械装置及び運搬具 2年～15年

ロ 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、見込利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

ハ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

当連結会計年度末に保有する債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ロ 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、賞与支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

ハ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、計上しております。

なお、会計基準変更時差異（4,691百万円）については、15年による按分額を費用処理しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

また、数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

ニ 債務保証損失引当金

債務保証等に係る損失に備えるため、被保証者の財政状態等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

(4) 重要なヘッジ会計の方法

イ ヘッジ会計の方法

為替予約取引

振当処理によっております。

金利スワップ取引

特例処理によっております。

ロ ヘッジ手段とヘッジ対象

外貨建金銭債権債務について為替予約取引を行っております。

また、借入金について金利スワップ取引を行っております。

ハ ヘッジ方針

為替変動リスク及び金利変動リスクを回避する目的で行っております。なお、これらの取引は社内規程に従い、決裁を得て行っております。

ニ ヘッジ有効性評価の方法

為替予約取引及び金利スワップ取引ともに、ヘッジ会計の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却は、子会社の実態に基づいて20年以内の適切な償却期間で均等償却しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3カ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の処理

税抜方式によっております。

【表示方法の変更】

(連結損益計算書)

1. 前連結会計年度において、独立掲記しておりました「投資有価証券売却益」は、特別利益の総額の100分の10以下となったため、当連結会計年度において「特別利益」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組換えを行っております。この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「投資有価証券売却益」に表示しておりました13百万円は、「特別利益」の「その他」として組み替えております。
2. 前連結会計年度において、「特別損失」の「その他」に含めておりました「減損損失」は、特別損失の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度において独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組換えを行っております。この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「特別損失」の「その他」に表示しておりました217百万円は、「減損損失」15百万円、「その他」201百万円として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書)

1. 前連結会計年度において、独立掲記しておりました「投資有価証券売却損益(は益)」は、金額の重要性により、当連結会計年度において「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組換えを行っております。この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「投資有価証券売却損益(は益)」に表示しておりました13百万円は、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」として組み替えております。
2. 前連結会計年度において、独立掲記しておりました「災害損失」は、金額の重要性により、当連結会計年度において「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組換えを行っております。この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「災害損失」に表示しておりました48百万円は、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」として組み替えております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。なお、「金融商品会計に関する実務指針」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第14号)に基づき、当連結会計年度の「貸倒引当金戻入額」は、「営業外収益」に計上しておりますが、前連結会計年度については遡及処理を行っておりません。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社項目

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券	136百万円	128百万円
出資金(投資その他の資産その他)	286百万円	286百万円

2 土地の再評価

当社は「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布 法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成13年3月31日公布 法律第19号)に基づき、事業用土地の再評価を行い、「土地再評価差額金」を純資産の部に計上しております。

再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布 政令第119号)第2条第3号及び第4号に定める方法により算出しております。

再評価を行った年月日

平成14年3月31日

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
再評価を行った土地の期末における 時価と再評価後の帳簿価額との差額	1,766百万円	1,961百万円

3 担保提供資産及び担保付債務

担保提供資産は次の通りであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
建物及び構築物	107百万円	107百万円
土地	23百万円	23百万円
合計	130百万円	130百万円

上記に対応する債務は次の通りであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
短期借入金	480百万円	480百万円
長期借入金	367百万円	347百万円
合計	847百万円	827百万円

4 保証債務

連結会社以外の会社等の銀行借入に対する保証債務は次の通りであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
㈱サンパード	431百万円	㈱サンパード 307百万円
大連愛思必食品有限公司	115百万円	大連愛思必食品有限公司 115百万円
㈱エフ・アール・フーズ他1件	10百万円	
合計	557百万円	合計 422百万円

(連結損益計算書関係)

1 たな卸資産の帳簿価額の切下額

商品及び製品期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
	46百万円	59百万円

2 研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
	874百万円	823百万円

3 固定資産除却損の内訳

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
建物及び構築物	57百万円	28百万円
機械装置及び運搬具	25百万円	14百万円
工具、器具及び備品	0百万円	0百万円
解体費用	3百万円	4百万円
合計	87百万円	48百万円

4 減損損失

当社グループは、継続的に収支の把握がなされている単位を基礎として資産のグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、地価の継続的な下落等により回収可能価額が帳簿価額を下回っている以下の遊休資産に関し、減損損失193百万円を計上しております。その内訳は建物0百万円、土地167百万円、電話加入権25百万円であります。

用途	種類	場所
遊休資産	土地及び建物	長野県北佐久郡
遊休資産	土地	神奈川県三浦市
遊休資産	土地	新潟県妙高市
遊休資産	電話加入権	東京都板橋区他
遊休資産	土地	その他5件

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、土地については路線価等、その他の資産については処分見込価額から処分費用見込額を控除した額により評価しております。

前連結会計年度につきましては、重要性が乏しいため記載を省略しております。

5 災害による損失

東日本大震災により計上したものであり、その内訳は次の通りであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
たな卸資産の廃棄及び滅失	29百万円	5百万円
被災資産の原状回復費用等	19百万円	26百万円
合計	48百万円	32百万円

6 事業整理損

事業整理損96百万円は、(株)エスピーカレーの王様の事業縮小によるものであります。

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金:

当期発生額	299百万円
税効果調整前	299百万円
税効果額	88百万円
その他有価証券評価差額金	210百万円

土地再評価差額金:

税効果額	204百万円
------	--------

為替換算調整勘定:

当期発生額	0百万円
-------	------

持分法適用会社に対する持分相当額:

当期発生額	0百万円
組替調整額	0百万円
持分法適用会社に対する持分相当額	0百万円

その他の包括利益合計	414百万円
------------	--------

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数 (千株)	当連結会計年度 増加株式数 (千株)	当連結会計年度 減少株式数 (千株)	当連結会計年度 末株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	34,885	-	-	34,885
合計	34,885	-	-	34,885
自己株式				
普通株式(注)1, 2	84	25	1	108
合計	84	25	1	108

(注)1. 普通株式の自己株式の株式数の増加25千株は、単元未満株式の買取りによる増加1千株、持分法適用会社への持分割合の増加による自己株式(当社株式)の当社帰属分23千株であります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少1千株は、持分法適用会社が売却した自己株式(当社株式)の当社帰属分であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	243	7	平成22年3月31日	平成22年6月30日
平成22年10月29日 取締役会	普通株式	243	7	平成22年9月30日	平成22年12月1日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	243	利益剰余金	7	平成23年3月31日	平成23年6月30日

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数 (千株)	当連結会計年度 増加株式数 (千株)	当連結会計年度 減少株式数 (千株)	当連結会計年度 末株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	34,885	-	-	34,885
合計	34,885	-	-	34,885
自己株式				
普通株式(注)	108	27	-	135
合計	108	27	-	135

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加27千株は、単元未満株式の買取りによる増加1千株、持分法適用会社への持分割合の増加による自己株式(当社株式)の当社帰属分26千株であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	243	7	平成23年3月31日	平成23年6月30日
平成23年11月2日 取締役会	普通株式	243	7	平成23年9月30日	平成23年12月1日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	243	利益剰余金	7	平成24年3月31日	平成24年6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
現金及び預金勘定	13,947百万円	15,450百万円
預入期間が3カ月を超える定期預金	33百万円	23百万円
現金及び現金同等物	13,914百万円	15,427百万円

2 重要な非資金取引の内容

新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額は、以下の通りであります。

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
リース資産	196百万円	335百万円
リース債務	205百万円	346百万円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

主として、コンピューター(工具、器具及び備品)であります。

(イ) 無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載の通りであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次の通りであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

(単位: 百万円)

	前連結会計年度(平成23年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	52	40	12
工具、器具及び備品	136	119	17
合計	189	159	29

(単位: 百万円)

	当連結会計年度(平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	39	34	4
工具、器具及び備品	41	39	1
合計	80	73	6

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い
ため、支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	22	6
1年超	6	0
合計	29	6

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める
割合が低い
ため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	81	22
減価償却費相当額	81	22

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	17	12
1年超	31	12
合計	49	24

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、スパイスとハーブを核とした製造販売事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金を主に銀行借入により調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理規定に従い、取引先ごとの回収期日管理及び滞留残高管理を行うことにより、主な取引先の信用状況を把握する体制としております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、為替予約取引を利用してヘッジしております。投資有価証券である株式は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。また、関係会社等に対し短期貸付及び長期貸付を行っております。貸付の執行・管理については社内規程に従い、決裁を得て行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。また、その一部には、原料等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されておりますが、為替予約取引を利用してヘッジしております。借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に営業取引や設備投資に係る資金調達であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、このうち長期のものの一部については、金利スワップ取引を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした為替予約取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。なお、為替予約取引及び金利スワップ取引ともに、ヘッジ会計の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。

デリバティブ取引の執行・管理については取引権限を定めた社内規程に従い、決裁を得て行っており、また、デリバティブの利用にあたっては、信用度の高い金融機関を契約相手としておりますので、当該取引に信用リスクはないと判断しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません(注)2.参照)。

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	13,947	13,947	-
(2) 受取手形及び売掛金 貸倒引当金()	23,599 97		
	23,502	23,502	-
(3) 短期貸付金 貸倒引当金()	6,750 1,019		
	5,730	5,730	-
(4) 投資有価証券 その他有価証券	3,975	3,975	-
(5) 長期貸付金 貸倒引当金()	2,709 665		
	2,043	2,043	-
資産計	49,199	49,199	-
(1) 支払手形及び買掛金	10,885	10,885	-
(2) 短期借入金	21,980	21,980	-
(3) 未払金	8,497	8,497	-
(4) 長期借入金	14,269	14,022	246
負債計	55,633	55,387	246
デリバティブ取引	-	1	1

() 受取手形及び売掛金、短期貸付金、長期貸付金はそれぞれ対応する貸倒引当金を控除しております。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	15,450	15,450	-
(2) 受取手形及び売掛金 貸倒引当金()	25,261 15		
	25,245	25,245	-
(3) 短期貸付金 貸倒引当金()	6,902 912		
	5,989	5,989	-
(4) 投資有価証券 其他有価証券	4,276	4,276	-
(5) 長期貸付金 貸倒引当金()	2,155 543		
	1,611	1,611	-
資産計	52,573	52,573	-
(1) 支払手形及び買掛金	11,300	11,300	-
(2) 短期借入金	22,731	22,731	-
(3) 未払金	9,106	9,106	-
(4) 長期借入金	13,312	13,100	212
負債計	56,450	56,238	212
デリバティブ取引	-	0	0

() 受取手形及び売掛金、短期貸付金、長期貸付金はそれぞれ対応する貸倒引当金を控除しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金、(3) 短期貸付金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。また、貸倒懸念債権については、回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結貸借対照表計上額から現在の貸倒見積高を控除した金額にほぼ等しいことから、当該価額をもって時価としております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。なお、有価証券は其他有価証券として保有しており、これに関する連結貸借対照表計上額と取得原価との差額は、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(5) 長期貸付金

長期貸付金は主に変動金利によるものであります。変動金利は一定期間ごとに金利が更改されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。また、貸倒懸念債権については、回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結貸借対照表計上額から現在の貸倒見積高を控除した金額にほぼ等しいことから、当該価額をもって時価としております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

なお、短期借入金のうち1年内返済予定の長期借入金については、下記(4)長期借入金と同様の方法により時価を算出しておりますが、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。変動金利による長期借入金は金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
非上場株式	304	296

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額並びに有利子負債の返済予定額
 前連結会計年度(平成23年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	13,947	-	-	-
受取手形及び売掛金	23,599	-	-	-
短期貸付金	6,750	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち満期 があるもの	-	-	-	-
長期貸付金	-	754	255	1,700
合計	44,297	754	255	1,700
短期借入金	21,980	-	-	-
長期借入金	-	13,896	372	-
合計	21,980	13,896	372	-

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	15,450	-	-	-
受取手形及び売掛金	25,261	-	-	-
短期貸付金	6,902	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち満期 があるもの	-	-	-	-
長期貸付金	-	200	255	1,700
合計	47,613	200	255	1,700
短期借入金	22,731	-	-	-
長期借入金	-	13,070	242	-
合計	22,731	13,070	242	-

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え るもの	(1) 株式	1,847	1,151	696
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	1,847	1,151	696
連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え ないもの	(1) 株式	2,127	2,494	366
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	2,127	2,494	366
	合計	3,975	3,646	329

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額304百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え るもの	(1) 株式	3,558	2,517	1,041
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	3,558	2,517	1,041
連結貸借対照表計上 額が取得原価を超え ないもの	(1) 株式	717	1,129	412
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	717	1,129	412
	合計	4,276	3,647	629

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額296百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

前連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式について1,350百万円減損処理を行っております。

なお、減損処理に当たっては、その他有価証券で時価のある株式については、期末における時価が取得原価に比べ50%を超えて下落した場合にはすべて減損処理を行い、30～50%下落した場合には、回復可能性を検討の上減損処理を行っております。また、非上場株式については、1株当たりの純資産額が取得原価に比べ50%を超えて下落した場合にはすべて減損処理を行い、30～50%下落した場合には、回復可能性を検討の上減損処理を行っております。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

当連結会計年度において、その他有価証券のうち非上場株式について0百万円減損処理を行っております。

なお、減損処理に当たっては、その他有価証券で時価のある株式については、期末における時価が取得原価に比べ50%を超えて下落した場合にはすべて減損処理を行い、30～50%下落した場合には、回復可能性を検討の上減損処理を行っております。また、非上場株式については、1株当たりの純資産額が取得原価に比べ50%を超えて下落した場合にはすべて減損処理を行い、30～50%下落した場合には、回復可能性を検討の上減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
 該当する取引はありません。

当連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
 該当する取引はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約取引の振当 処理	為替予約取引 売建	売掛金	34	-	1
	香港ドル				
	買建	買掛金	1	-	0
	米ドル				
	加ドル	買掛金	3	-	0
合計			39	-	1

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約取引の振当 処理	為替予約取引 売建	売掛金	24	-	0
	香港ドル				
	買建	買掛金	0	-	0
	米ドル				
	ユーロ	買掛金	10	-	0
合計			35	-	0

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 金利関連

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップ取引の 特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支 払	長期借入金	8,820	7,960	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップ取引の 特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支 払	長期借入金	8,780	7,345	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

退職給付制度としては退職一時金制度、厚生年金基金制度、確定拠出年金制度及び規約型確定給付企業年金制度を設けております。

また、従業員の退職に際して、退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合もあります。

退職一時金制度は当社及び連結子会社6社、厚生年金基金制度は当社及び連結子会社3社、確定拠出年金制度及び規約型確定給付企業年金制度は当社が有しております。

なお、厚生年金基金制度については当社及び連結子会社3社ともに、総合設立型の酒フーズ厚生年金基金に加入しており、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次の通りであります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
年金資産の額	55,537百万円	52,860百万円
年金財政計算上の給付債務の額	70,041百万円	67,824百万円
差引額	14,504百万円	14,964百万円

(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合

前連結会計年度	12.6% (平成23年3月31日現在)
当連結会計年度	12.8% (平成24年3月31日現在)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高11,049百万円と繰越不足金2,954百万円及び当年度不足金960百万円であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は期間20年(前連結会計年度は19年10カ月)の元利均等償却であり、当社グループは、当期の連結財務諸表上、特別掛金122百万円を費用処理しております。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(1) 退職給付債務(百万円)	9,094	8,877
(2) 年金資産(百万円)	1,761	1,913
(3) 未積立退職給付債務(1)+(2)(百万円)	7,333	6,963
(4) 会計基準変更時差異の未処理額(百万円)	1,161	871
(5) 未認識数理計算上の差異(百万円)	134	25
(6) 未認識過去勤務債務(百万円)	34	1
(7) 退職給付引当金〔(3)~(6)合計〕(百万円)	6,002	6,068

(注) 1. 厚生年金基金については、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため退職給付債務には含めておりません。

2. 連結子会社につきましては、簡便法(期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法)によっております。

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
(1) 勤務費用(百万円)	359	353
(2) 利息費用(百万円)	180	183
(3) 期待運用収益(百万円)	28	31
(4) 会計基準変更時差異の費用処理額(百万円)	290	290
(5) 過去勤務債務の費用処理額(百万円)	36	36
(6) 数理計算上の差異の費用処理額(百万円)	6	3
(7) 臨時に支払った割増退職金(百万円)	5	3
(8) 簡便法による連結子会社の退職給付費用(百万円)	70	70
(9) 総合設立型厚生年金基金拠出額等(百万円)	366	364
(10) 退職給付費用〔(1)～(9)合計〕(百万円)	1,274	1,273
(11) その他(百万円)	22	22
合計(百万円)	1,297	1,296

(注) 1. 厚生年金基金については、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、当該年金基金への要拠出額を退職給付費用としております。

2. 「(1)勤務費用」は、出向者に係る出向先負担額を控除しております。
 3. 「(11)その他」は、確定拠出年金への掛金要支払額であります。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法
 期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
2.2%	2.2%

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1.8%	1.8%

(4) 過去勤務債務の額の処理年数

10年であります。(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用処理しております。)

(5) 数理計算上の差異の処理年数

10年であります。(各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。)

(6) 会計基準変更時差異の処理年数

15年であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(1) 流動の部		
繰延税金資産		
貸倒引当金	462百万円	360百万円
賞与引当金	485百万円	447百万円
未払金	335百万円	264百万円
その他	382百万円	309百万円
繰延税金資産小計	1,666百万円	1,381百万円
評価性引当額	2百万円	28百万円
繰延税金資産合計	1,663百万円	1,353百万円
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	3百万円	3百万円
貸倒引当金	9百万円	-
その他	0百万円	1百万円
繰延税金負債合計	13百万円	4百万円
繰延税金資産の純額	1,650百万円	1,348百万円
(2) 固定の部		
繰延税金資産		
退職給付引当金	2,441百万円	2,192百万円
出資金評価損	152百万円	152百万円
貸倒引当金	319百万円	234百万円
債務保証損失引当金	-	122百万円
減損資産	226百万円	249百万円
未払金	237百万円	-
その他	559百万円	540百万円
繰延税金資産小計	3,937百万円	3,492百万円
評価性引当額	413百万円	602百万円
繰延税金資産合計	3,523百万円	2,889百万円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額	139百万円	229百万円
固定資産圧縮積立金	108百万円	91百万円
その他	28百万円	22百万円
繰延税金負債合計	276百万円	344百万円
繰延税金資産の純額	3,247百万円	2,545百万円

繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	1,650百万円	1,348百万円
固定資産 - 繰延税金資産	3,247百万円	2,545百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	41.0%	41.0%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.3%	1.3%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.9%	0.5%
住民税均等割	1.8%	1.5%
法人税額の特別控除	2.2%	1.8%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	11.5%
評価性引当額	1.3%	8.3%
過年度法人税等	17.8%	2.8%
その他	0.5%	0.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	58.0%	64.2%

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の41.0%から、平成24年4月1日に開始する連結会計年度から平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については38.0%に、平成27年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については35.6%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は383百万円減少し、法人税等調整額が417百万円、その他有価証券評価差額金が34百万円、それぞれ増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、国内及び海外において事業活動を展開しており、製品・サービス別に戦略の立案を行っております。

したがいまして、当社グループは、製品・サービス別のセグメントから構成されており、「食料品事業」を報告セグメントとしており、また報告セグメントに含まれない事業セグメントを「その他」としております。

「食料品事業」におきましては、各種香辛料、即席カレー、チューブ製品、レトルトカレー、加工米飯等の製造・販売のほか、関連する原材料の調達を行っております。また、「その他」におきましては、調理済食品の製造・販売のほか、外食事業として飲食店の経営を行っております。

2. 報告セグメントの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益又は損失は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は、第三者間取引価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	食料品事業				
売上高					
外部顧客への売上高	117,334	9,388	126,722	-	126,722
セグメント間の内部 売上高又は振替高	22	36	59	59	-
計	117,357	9,424	126,781	59	126,722
セグメント利益	5,154	151	5,305	46	5,352
セグメント資産	64,255	3,034	67,289	27,680	94,970
その他の項目					
減価償却費	2,416	325	2,742	-	2,742
のれんの償却額	-	3	3	-	3
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2,009	203	2,212	-	2,212

(注) 1. 「その他」は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、調理済食品、外食事業を含んでおります。

2. 調整額の内容は以下の通りであります。

(1) セグメント利益の調整額46百万円は、セグメント間取引消去46百万円であります。

(2) セグメント資産の調整額27,680百万円には、セグメント間債権債務消去 6百万円、各報告セグメントに配分していない全社資産(運用資金等) 27,687百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	食料品事業				
売上高					
外部顧客への売上高	117,752	9,628	127,381	-	127,381
セグメント間の内部 売上高又は振替高	20	30	50	50	-
計	117,773	9,658	127,431	50	127,381
セグメント利益	4,006	126	4,133	45	4,178
セグメント資産	64,998	3,069	68,068	29,074	97,142
その他の項目					
減価償却費	2,365	323	2,688	-	2,688
のれんの償却額	-	3	3	-	3
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,831	479	2,311	-	2,311

(注) 1. 「その他」は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、調理済食品、外食事業を含んでおります。

2. 調整額の内容は以下の通りであります。

(1) セグメント利益の調整額45百万円は、セグメント間取引消去45百万円であります。

(2) セグメント資産の調整額29,074百万円には、セグメント間債権債務消去 6百万円、各報告セグメントに配分していない全社資産（運用資金等）29,080百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

「セグメント情報」に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：百万円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三井物産(株)	24,631	食料品事業
(株)菱食	23,660	食料品事業
国分(株)	19,804	食料品事業

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

「セグメント情報」に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三菱食品(株)	28,520	食料品事業
三井物産(株)	24,570	食料品事業
国分(株)	17,766	食料品事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

(単位：百万円)

	食料品事業	その他	全社	合計
減損損失	15	-	-	15

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

(単位：百万円)

	食料品事業	その他	全社	合計
減損損失	193	-	-	193

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

(単位：百万円)

	食料品事業	その他	全社	合計
当期末残高	-	26	-	26

なお、平成22年4月1日前行われた子会社の企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下の通りであります。

(単位：百万円)

	食料品事業	その他	全社	合計
当期償却額	2	-	-	2
当期末残高	39	-	-	39

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

(単位：百万円)

	食料品事業	その他	全社	合計
当期末残高	-	22	-	22

なお、平成22年4月1日前行われた子会社の企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下の通りであります。

(単位：百万円)

	食料品事業	その他	全社	合計
当期償却額	2	-	-	2
当期末残高	37	-	-	37

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有（被所有）割合 (%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	(株)ゴールデンフーズ	東京都板橋区	10	食料品卸売業	(所有) 直接9.6 間接5.3	当社業務用製品の販売 役員の兼任	当社製品の販売	11,594	受取手形及び売掛金	5,114

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1) (株)ゴールデンフーズとの取引については、当社と関連を有しない他の取引先と同様の条件によっております。

(2) (株)ゴールデンフーズを含む全ての関連会社への貸倒懸念債権に対し、合計1,658百万円の貸倒引当金を計上しております。また、当連結会計年度において418百万円の貸倒引当金繰入額を計上しております。

3. (株)ゴールデンフーズは、持分は100分の20未満ではありますが、実質的な影響力を持っているため関連会社としております。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の 所有（被所有）割合 (%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	(株)ゴールデンフーズ	東京都板橋区	10	食料品卸売業	(所有) 直接9.6 間接5.3	当社業務用製品の販売	当社製品の販売	11,508	受取手形及び売掛金	5,249

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1) (株)ゴールデンフーズとの取引については、当社と関連を有しない他の取引先と同様の条件によっております。

(2) (株)ゴールデンフーズを含む全ての関連会社への貸倒懸念債権に対し、合計1,379百万円の貸倒引当金を計上しております。また、当連結会計年度において20百万円の貸倒引当金戻入額を計上しております。

3. (株)ゴールデンフーズは、持分は100分の20未満ではありますが、実質的な影響力を持っているため関連会社としております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有（被所有）割合 (%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	㈱スパイス製造	群馬県 太田市	30	食料品 製造業	(所有) 直接6.8	商品の納入 役員の兼任	エスピー ガーリック 食品㈱による商品の購入	2,499	買掛金	1,279

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

㈱スパイス製造との取引については、市場価格等を勘案し、価格交渉の上で取引条件を決定しております。

3. ㈱スパイス製造は、持分は100分の20未満ではありますが、実質的な影響力を持っているため関連会社としております。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有（被所有）割合 (%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	㈱スパイス製造	群馬県 太田市	30	食料品 製造業	(所有) 直接6.8	商品の納入	エスピー ガーリック 食品㈱による商品の購入	2,897	買掛金	1,247

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

㈱スパイス製造との取引については、市場価格等を勘案し、価格交渉の上で取引条件を決定しております。

3. ㈱スパイス製造は、株式の売却により平成24年2月28日付で関連当事者ではなくなっております。このため、資本金及び議決権等の所有割合については、関連当事者でなくなった時点のものを記載しております。なお、取引金額については、エスピーガーリック食品㈱の事業年度である平成23年1月1日から平成23年12月31日までの金額を記載しており、期末残高については平成23年12月31日時点のものを記載しております。

(1 株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
1株当たり純資産額	773.97円	809.17円
1株当たり当期純利益金額	35.93円	37.31円

(注) 1. 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
当期純利益 (百万円)	1,249	1,296
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	1,249	1,296
期中平均株式数 (千株)	34,784	34,752

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	18,275	18,655	1.27	-
1年以内に返済予定の長期借入金	3,705	4,076	1.85	-
1年以内に返済予定のリース債務	85	132	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	14,269	13,312	1.99	平成25年～31年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	216	401	-	平成25年～39年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	36,552	36,577	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下の通りであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	7,016	4,583	1,032	437
リース債務	115	96	65	36

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	29,916	63,631	98,714	127,381
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	1,666	1,942	3,819	3,619
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	886	970	1,721	1,296
1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	25.50	27.93	49.53	37.31

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 又は純損失金額() (円)	25.50	2.43	21.60	12.22

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,009	13,719
受取手形	¹ 4,944	¹ 4,947
売掛金	¹ 18,160	¹ 19,809
商品及び製品	4,107	4,613
仕掛品	1,258	1,329
原材料及び貯蔵品	3,480	3,592
前払費用	234	315
繰延税金資産	1,451	1,256
短期貸付金	¹ 1,790	¹ 2,002
その他	115	192
貸倒引当金	1,471	1,512
流動資産合計	46,080	50,264
固定資産		
有形固定資産		
建物	20,120	20,172
減価償却累計額	12,815	13,259
建物（純額）	7,305	6,912
構築物	⁴ 1,803	⁴ 1,748
減価償却累計額	1,486	1,437
構築物（純額）	⁴ 316	⁴ 310
機械及び装置	17,417	17,856
減価償却累計額	14,894	15,429
機械及び装置（純額）	2,523	2,426
車両運搬具	91	84
減価償却累計額	82	71
車両運搬具（純額）	9	13
工具、器具及び備品	3,182	3,394
減価償却累計額	2,604	2,802
工具、器具及び備品（純額）	577	591
土地	² 8,066	² 8,039
リース資産	313	453
減価償却累計額	81	174
リース資産（純額）	232	278
建設仮勘定	133	40
有形固定資産合計	19,164	18,613
無形固定資産		
借地権	41	41
商標権	1	0
ソフトウェア	375	425
リース資産	3	2
電話加入権	50	25
その他	10	10
無形固定資産合計	482	505

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	4,056	4,363
関係会社株式	909	901
出資金	297	246
関係会社出資金	286	286
関係会社長期貸付金	2,209	1,620
破産更生債権等	0	0
長期前払費用	30	16
繰延税金資産	2,534	1,799
長期保険掛金	1,142	1,162
その他	1,064	959
貸倒引当金	482	397
投資その他の資産合計	12,050	10,961
固定資産合計	31,697	30,080
資産合計	77,778	80,344
負債の部		
流動負債		
支払手形	1 3,983	1 4,047
買掛金	1 8,626	1 9,443
短期借入金	7,345	8,155
1年内返済予定の長期借入金	2,471	2,808
リース債務	73	98
未払金	8,166	8,720
未払費用	431	510
未払法人税等	588	538
前受金	4	2
預り金	56	121
前受収益	4	3
賞与引当金	984	967
資産除去債務	-	2
設備関係支払手形	105	170
その他	0	-
流動負債合計	32,842	35,590
固定負債		
長期借入金	12,377	11,592
リース債務	176	200
再評価に係る繰延税金負債	2 1,552	2 1,345
退職給付引当金	5,446	5,436
債務保証損失引当金	218	343
資産除去債務	125	116
長期未払金	573	135
長期預り金	23	22
固定負債合計	20,492	19,192
負債合計	53,334	54,782

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,744	1,744
資本剰余金		
資本準備金	5,343	5,343
その他資本剰余金	0	0
資本剰余金合計	5,343	5,343
利益剰余金		
利益準備金	436	436
その他利益剰余金		
厚生施設積立金	700	700
固定資産圧縮積立金	162	170
別途積立金	16,318	16,318
繰越利益剰余金	3,614	4,310
利益剰余金合計	21,230	21,934
自己株式	43	44
株主資本合計	28,275	28,978
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	200	415
土地再評価差額金	² 4,031	² 3,831
評価・換算差額等合計	3,831	3,416
純資産合計	24,443	25,562
負債純資産合計	77,778	80,344

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	116,927	117,480
売上原価		
商品及び製品期首たな卸高	4,118	4,107
当期製品製造原価	¹ 30,914	¹ 33,484
当期商品仕入高	¹ 33,183	¹ 31,815
合計	68,216	69,408
他勘定振替高	² 36	² 40
商品及び製品期末たな卸高	³ 4,107	³ 4,613
売上原価合計	64,072	64,754
売上総利益	52,855	52,726
販売費及び一般管理費		
販売促進費	29,610	30,752
荷造運搬費	2,455	2,484
広告宣伝費	3,643	3,744
貸倒引当金繰入額	440	-
給料及び手当	3,856	3,817
賞与引当金繰入額	582	565
退職給付費用	646	636
減価償却費	612	585
その他	⁴ 6,513	⁴ 6,600
販売費及び一般管理費合計	48,362	49,187
営業利益	4,492	3,538
営業外収益		
受取利息	⁵ 75	⁵ 85
受取配当金	104	111
不動産賃貸料	73	66
貸倒引当金戻入額	-	47
その他	69	76
営業外収益合計	322	388
営業外費用		
支払利息	536	542
貸倒引当金繰入額	141	-
為替差損	29	1
その他	24	24
営業外費用合計	732	568
経常利益	4,082	3,358

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
特別利益		
貸倒引当金戻入額	2	-
債務保証損失引当金戻入額	35	-
受取補償金	6	59
補助金収入	-	9
その他	16	6
特別利益合計	61	75
特別損失		
固定資産除却損	⁶ 60	⁶ 21
減損損失	9	⁷ 34
投資有価証券評価損	1,350	0
ゴルフ会員権評価損	-	36
貸倒引当金繰入額	35	26
債務保証損失引当金繰入額	-	124
災害による損失	⁸ 34	⁸ 31
その他	183	1
特別損失合計	1,674	275
税引前当期純利益	2,468	3,158
法人税、住民税及び事業税	1,058	1,034
過年度法人税等	527	100
法人税等調整額	26	837
法人税等合計	1,559	1,971
当期純利益	909	1,187

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)		当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
原材料費	1	19,530	63.3	21,926	65.3
労務費		3,884	12.6	3,885	11.6
経費		7,458	24.2	7,744	23.1
当期総製造費用		30,873	100	33,555	100
期首仕掛品たな卸高		1,299		1,258	
合計		32,172		34,814	
期末仕掛品たな卸高		1,258		1,329	
当期製品製造原価	2	30,914		33,484	

(注) 1. 経費のうち主なものは次の通りであります。

項目	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
水道光熱費 (百万円)	520	542
外注加工費 (百万円)	1,024	1,160
減価償却費 (百万円)	1,114	1,074

2. 原価計算の方法

原価計算の方法は、工程別総合原価計算であります。

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	1,744	1,744
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,744	1,744
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	5,343	5,343
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	5,343	5,343
その他資本剰余金		
当期首残高	0	0
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	0	0
資本剰余金合計		
当期首残高	5,343	5,343
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	5,343	5,343
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	436	436
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	436	436
その他利益剰余金		
厚生施設積立金		
当期首残高	700	700
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	700	700
固定資産圧縮積立金		
当期首残高	168	162
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の取崩	5	5
税率変更に伴う固定資産圧縮積立金の増加	-	13
当期変動額合計	5	8
当期末残高	162	170
別途積立金		
当期首残高	16,318	16,318

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	16,318	16,318
繰越利益剰余金		
当期首残高	3,177	3,614
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の取崩	5	5
税率変更に伴う固定資産圧縮積立金の増加	-	13
剰余金の配当	487	487
当期純利益	909	1,187
土地再評価差額金の取崩	9	4
当期変動額合計	437	695
当期末残高	3,614	4,310
利益剰余金合計		
当期首残高	20,799	21,230
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の取崩	-	-
税率変更に伴う固定資産圧縮積立金の増加	-	-
剰余金の配当	487	487
当期純利益	909	1,187
土地再評価差額金の取崩	9	4
当期変動額合計	431	704
当期末残高	21,230	21,934
自己株式		
当期首残高	42	43
当期変動額		
自己株式の取得	1	0
当期変動額合計	1	0
当期末残高	43	44
株主資本合計		
当期首残高	27,845	28,275
当期変動額		
剰余金の配当	487	487
当期純利益	909	1,187
自己株式の取得	1	0
土地再評価差額金の取崩	9	4
当期変動額合計	429	703
当期末残高	28,275	28,978

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	171	200
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	371	215
当期変動額合計	371	215
当期末残高	200	415
土地再評価差額金		
当期首残高	4,022	4,031
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	9	199
当期変動額合計	9	199
当期末残高	4,031	3,831
評価・換算差額等合計		
当期首残高	4,193	3,831
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	362	414
当期変動額合計	362	414
当期末残高	3,831	3,416
純資産合計		
当期首残高	23,651	24,443
当期変動額		
剰余金の配当	487	487
当期純利益	909	1,187
自己株式の取得	1	0
土地再評価差額金の取崩	9	4
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	362	414
当期変動額合計	792	1,118
当期末残高	24,443	25,562

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
 - (1) 満期保有目的の債券
償却原価法（定額法）によっております。
 - (2) 子会社株式及び関連会社株式
移動平均法による原価法によっております。
 - (3) その他有価証券
時価のあるもの
決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。
時価のないもの
移動平均法による原価法によっております。
2. たな卸資産の評価基準及び評価方法
主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）によっております。
3. 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産（リース資産を除く）
定率法によっております。
ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物付属設備を除く）については、定額法を採用しております。
なお、主な耐用年数は以下の通りであります。
建物 2年～50年
機械及び装置 2年～10年
 - (2) 無形固定資産（リース資産を除く）
定額法によっております。
なお、自社利用のソフトウェアについては、見込利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。
 - (3) リース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。
なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
4. 引当金の計上基準
 - (1) 貸倒引当金
当事業年度末に保有する債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
 - (2) 賞与引当金
従業員の賞与の支給に充てるため、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。
 - (3) 退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。
なお、会計基準変更時差異（3,925百万円）については、15年による按分額を費用処理しております。
過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。
また、数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。
 - (4) 債務保証損失引当金
債務保証等に係る損失に備えるため、被保証者の財政状態等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

5. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

為替予約取引

振当処理によっております。

金利スワップ取引

特例処理によっております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

外貨建金銭債権債務について為替予約取引を行っております。

また、借入金について金利スワップ取引を行っております。

(3) ヘッジ方針

為替変動リスク及び金利変動リスクを回避する目的で行っております。なお、これらの取引は社内規程に従い、決裁を得て行っております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

為替予約取引及び金利スワップ取引ともに、ヘッジ会計の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の処理

税抜方式によっております。

【表示方法の変更】

(損益計算書)

1. 前事業年度において、独立掲記しておりました「投資有価証券売却益」は、特別利益の総額の100分の10以下となったため、当事業年度において「特別利益」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「投資有価証券売却益」に表示しておりました13百万円は、「特別利益」の「その他」として組み替えております。

2. 前事業年度において、「特別損失」の「その他」に含めておりました「減損損失」は、特別損失の総額の100分の10を超えたため、当事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「特別損失」の「その他」に表示しておりました193百万円は、「減損損失」9百万円、「その他」183百万円として組み替えております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

なお、「金融商品会計に関する実務指針」（日本公認会計士協会会計制度委員会報告第14号）に基づき、当事業年度の「貸倒引当金戻入額」は、「営業外収益」に計上しておりますが、前事業年度については遡及処理を行っておりません。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する資産及び負債

関係会社に対する資産及び負債は次の通りであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形	4,826百万円	4,843百万円
売掛金	1,308百万円	804百万円
短期貸付金	940百万円	1,202百万円
支払手形	653百万円	578百万円
買掛金	5,645百万円	6,565百万円

2 土地の再評価

「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布 法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成13年3月31日公布 法律第19号)に基づき、事業用土地の再評価を行い、「土地再評価差額金」を純資産の部に計上しております。

再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布 政令第119号)第2条第3号及び第4号に定める方法により算出しております。

再評価を行った年月日

平成14年3月31日

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
再評価を行った土地の期末における 時価と再評価後の帳簿価額との差額	1,766百万円	1,961百万円

3 保証債務

事業年度末において銀行借入に対する保証債務は次の通りであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
(株)ヒガシヤデリカ	520百万円	(株)ヒガシヤデリカ 440百万円
(株)サンバード	431百万円	(株)エスビーサンキョーフーズ 374百万円
(株)エスビーサンキョーフーズ	418百万円	(株)サンバード 307百万円
大連愛思必食品有限公司	115百万円	大連愛思必食品有限公司 115百万円
(株)エスビーカレーの王様他2件	100百万円	(株)エスビーカレーの王様 90百万円
合計	1,585百万円	合計 1,326百万円

4 圧縮記帳

取得価額より控除した国庫補助金等の圧縮記帳額は次の通りであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
構築物	2百万円	2百万円

(損益計算書関係)

1 関係会社仕入高

関係会社との仕入取引に係るものが次の通り含まれております。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	30,466百万円	32,818百万円

2 他勘定振替高

他勘定振替高の内訳は次の通りであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
販売費及び一般管理費(その他)への振替高	-	30百万円
営業外費用(その他)への振替高	8百万円	4百万円
災害による損失への振替高	27百万円	5百万円
合計	36百万円	40百万円

3 たな卸資産の帳簿価額の切下額

商品及び製品期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	46百万円	59百万円

4 研究開発費の総額

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	822百万円	769百万円

5 関係会社受取利息

関係会社からの受取利息が次の通り含まれております。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	50百万円	49百万円

6 固定資産除却損の内訳

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
建物	33百万円	4百万円
構築物	16百万円	6百万円
機械及び装置	6百万円	6百万円
車両運搬具	0百万円	0百万円
工具、器具及び備品	0百万円	0百万円
解体費用	3百万円	4百万円
合計	60百万円	21百万円

7 減損損失

当社は、継続的に収支の把握がなされている単位を基礎として資産のグルーピングを行っております。
 当事業年度において、地価の継続的な下落等により回収可能価額が帳簿価額を下回っている以下の遊休資産
 産に関し、減損損失34百万円を計上しております。その内訳は土地9百万円、電話加入権25百万円でありま
 す。

用途	種類	場所
遊休資産	土地	神奈川県三浦市
遊休資産	電話加入権	東京都板橋区他
遊休資産	土地	その他4件

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、土地については路線価等、その他の資産につい
 ては処分見込価額から処分費用見込額を控除した額により評価しております。
 前事業年度につきましては、重要性が乏しいため記載を省略しております。

8 災害による損失

東日本大震災により計上したものであり、その内訳は次の通りであります。

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
たな卸資産の廃棄及び滅失	27百万円	5百万円
被災資産の原状回復費用等	6百万円	25百万円
合計	34百万円	31百万円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(千株)	当事業年度増加 株式数(千株)	当事業年度減少 株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
普通株式(注)	59	1	-	60
合計	59	1	-	60

(注)普通株式の自己株式の株式数の増加1千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

当事業年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(千株)	当事業年度増加 株式数(千株)	当事業年度減少 株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
普通株式(注)	60	1	-	62
合計	60	1	-	62

(注)普通株式の自己株式の株式数の増加1千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引(借主側)
 所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

主として、コンピューター(工具、器具及び備品)であります。

(イ) 無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載の通りであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次の通りであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

(単位:百万円)

	前事業年度(平成23年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械及び装置	38	30	8
車両運搬具	14	10	3
工具、器具及び備品	131	115	16
合計	184	156	28

(単位:百万円)

	当事業年度(平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械及び装置	32	28	3
車両運搬具	6	5	1
工具、器具及び備品	36	35	1
合計	76	69	6

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	21	6
1年超	6	0
合計	28	6

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失

(単位:百万円)

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	78	21
減価償却費相当額	78	21

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年内	16	11
1年超	30	11
合計	47	22

(有価証券関係)

前事業年度(平成23年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式869百万円、関連会社株式40百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成24年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式861百万円、関連会社株式40百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
(1) 流動の部		
繰延税金資産		
貸倒引当金	602百万円	525百万円
賞与引当金	403百万円	367百万円
未払金	335百万円	264百万円
その他	114百万円	104百万円
繰延税金資産小計	1,455百万円	1,261百万円
評価性引当額	-	1百万円
繰延税金資産合計	1,455百万円	1,259百万円
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	3百万円	3百万円
繰延税金負債合計	3百万円	3百万円
繰延税金資産の純額	1,451百万円	1,256百万円
(2) 固定の部		
繰延税金資産		
退職給付引当金	2,232百万円	1,971百万円
ゴルフ会員権評価損	140百万円	141百万円
貸倒引当金	197百万円	132百万円
債務保証損失引当金	89百万円	122百万円
減損資産	-	52百万円
未払金	234百万円	-
その他	155百万円	114百万円
繰延税金資産小計	3,050百万円	2,536百万円
評価性引当額	240百万円	393百万円
繰延税金資産合計	2,810百万円	2,142百万円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額	139百万円	229百万円
固定資産圧縮積立金	108百万円	91百万円
その他	27百万円	22百万円
繰延税金負債合計	275百万円	343百万円
繰延税金資産の純額	2,534百万円	1,799百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	41.0%	41.0%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.2%	1.3%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.6%	0.5%
住民税均等割	2.1%	1.6%
法人税額の特別控除	2.5%	1.9%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	11.5%
評価性引当額	0.4%	6.8%
過年度法人税等	21.4%	3.2%
その他	0.2%	0.5%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	63.2%	62.4%

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の41.0%から、平成24年4月1日に開始する事業年度から平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については38.0%に、平成27年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については35.6%となります。この税率変更により、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）は329百万円減少し、法人税等調整額が364百万円、その他有価証券評価差額金が34百万円、それぞれ増加しております。

（1株当たり情報）

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	701.91円	734.05円
1株当たり当期純利益金額	26.12円	34.09円

（注）1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
当期純利益（百万円）	909	1,187
普通株主に帰属しない金額（百万円）	-	-
普通株式に係る当期純利益（百万円）	909	1,187
期中平均株式数（千株）	34,825	34,824

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

【附属明細表】
 【有価証券明細表】
 【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	
投資有価証券	その他有価証券	(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	2,747,580	1,132
		豊田通商(株)	220,200	371
		(株)千葉銀行	699,284	369
		加藤産業(株)	218,017	356
		三菱食品(株)	103,936	220
		(株)東京都民銀行	215,296	214
		(株)ADEKA	244,000	191
		大日本印刷(株)	173,000	146
		(株)横浜銀行	260,379	107
		(株)常陽銀行	235,452	89
		三井住友トラスト・ホールディングス(株)	300,000	79
		伊藤忠食品(株)	24,865	76
		日本製粉(株)	183,000	69
		(株)みずほフィナンシャルグループ	466,437	62
		(株)バロー	41,040	56
		(株)トーカン	38,000	55
		(株)セブン&アイ・ホールディングス	22,713	55
		(株)三井住友フィナンシャルグループ	17,375	47
		(株)丸久	58,849	46
		オーケー(株)	90,000	43
		(株)ゼンショーホールディングス	41,600	42
		(株)アサツー ディ・ケイ	17,653	41
		(株)ファミリーマート	10,285	35
		(株)マルエツ	107,694	33
		(株)日清製粉グループ本社	30,750	30
		(株)マルイチ産商	45,738	30
		(株)シジシー・ショップ	600	30
		三井物産(株)	19,472	26
		イオン(株)	21,000	22
		戸田建設(株)	75,891	21
		(株)ライフコーポレーション他49銘柄	491,735	205
計		7,221,841	4,313	

【その他】

種類及び銘柄		投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (百万円)	
投資有価証券	その他有価証券	(優先出資証券) シンセイ・ファイナンス・ファイブ (ケイマン)リミテッド	5	50
計		5	50	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	20,120	115	64	20,172	13,259	503	6,912
構築物	1,803	58	112	1,748	1,437	57	310
機械及び装置	17,417	590	151	17,856	15,429	679	2,426
車両運搬具	91	14	21	84	71	7	13
工具、器具及び備品	3,182	227	15	3,394	2,802	213	591
土地	8,066	-	26 (9)	8,039	-	-	8,039
リース資産	313	139	-	453	174	92	278
建設仮勘定	133	968	1,061	40	-	-	40
有形固定資産計	51,129	2,114	1,453 (9)	51,789	33,176	1,555	18,613
無形固定資産							
借地権	41	-	-	41	0	-	41
商標権	9	-	-	9	9	0	0
ソフトウェア	699	177	-	876	450	127	425
リース資産	7	-	-	7	4	1	2
電話加入権	50	-	25 (25)	25	-	-	25
その他	10	-	-	10	0	0	10
無形固定資産計	818	177	25 (25)	970	465	129	505
長期前払費用	102	9	-	112	73	28	38 (21)

(注) 1. 当期減少額の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

2. 建設仮勘定の増加額の多くは本勘定に振り替えられているため、その主な内容の記載は省略しております。

3. 無形固定資産の「ソフトウェア」及び「その他」と長期前払費用の当期首残高は、前期末償却済みの残高を控除して記載しております。

4. 長期前払費用の()内の金額は、次期償却予定額で上段金額に含まれ、貸借対照表には流動資産の「前払費用」に計上されております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金(注1)	1,953	1,910	0	1,952	1,910
賞与引当金	984	967	984	-	967
債務保証損失引当金(注2)	218	343	-	218	343

(注) 1. 貸倒引当金の当期減少額の「その他」は洗替え等によるものであります。

2. 債務保証損失引当金の当期減少額の「その他」は洗替えによるものであります。

(2)【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	4
預金	
当座預金	8,560
普通預金	148
通知預金	4,205
定期預金	800
郵便振替貯金	0
小計	13,715
合計	13,719

受取手形

相手先別内訳		期日別内訳	
相手先	金額(百万円)	期日別	金額(百万円)
(株)ゴールデンフーズ	4,781	平成24年4月	448
(株)榎本武平商店	79	" 5月	1,810
(株)エフ・アール・フーズ	62	" 6月	961
(株)ケーアイエス	9	" 7月(以降を含む)	1,726
日本ハム(株)	6		
長野プロパンガス(株)他	7		
合計	4,947	合計	4,947

売掛金

相手先別内訳		回収状況及び滞留状況	
相手先	金額(百万円)	区分	金額(百万円)
三菱食品(株)	7,355	当期首残高(A)	18,160
国分(株)	4,125	当期売上高(B)	117,480
三井物産(株)	2,214	預り消費税等(C)	5,750
(株)日本アクセス	2,024	当期回収高(D)	121,582
伊藤忠商事(株)	841	当期末残高(E)	19,809
(株)ゴールデンフーズ他	3,247	回収率	
		$\frac{(D)}{(A) + (B) + (C)} \times 100$	86%
		平均滞留期間	
		$\frac{(A) + (E)}{2} \div \frac{(B) + (C)}{12} \times 30日$	55日
合計	19,809		

商品及び製品

区分	金額(百万円)
スパイス&ハーブグループ	889
即席グループ	1,070
香辛調味料グループ	949
インスタント食品その他グループ	1,703
合計	4,613

仕掛品

区分	金額(百万円)
東松山工場(カレー粉他)	1,143
上田工場(粉末調味料他)	66
宮城工場(精米仕掛品)	40
その他(スパイス他)	78
合計	1,329

原材料及び貯蔵品

区分	金額(百万円)
原材料	
東松山工場(スパイス他)	1,676
上田工場(油脂他)	399
宮城工場(米他)	32
その他(油脂他)	1,221
小計	3,331
貯蔵品	
宣伝用品	131
修繕用部品	45
燃料他	83
小計	261
合計	3,592

支払手形

相手先別内訳		期日別内訳	
相手先	金額(百万円)	期日別	金額(百万円)
池田糖化工業(株)	978	平成24年4月	1,308
(株)エスビー興産	578	" 5月	1,284
東京食品産業(株)	440	" 6月	779
(株)電通	218	" 7月(以降を含む)	674
国分(株)	217		
(株)坂田信夫商店他	1,613		
合計	4,047	合計	4,047

買掛金

相手先	金額(百万円)
(株)エスビー興産	3,492
エスビーガーリック食品(株)	1,790
エスビースライス工業(株)	775
(株)エスビーサンキョーフーズ	275
(株)大伸	227
池田糖化工業(株)他	2,880
合計	9,443

短期借入金

相手先	金額(百万円)
(株)新生銀行	1,240
農林中央金庫	1,025
(株)三菱東京UFJ銀行	1,025
(株)常陽銀行	835
(株)横浜銀行	835
(株)千葉銀行他	3,195
合計	8,155

1年内返済予定の長期借入金

相手先	金額(百万円)
日本生命保険相互会社	553
(株)東京都民銀行	535
農林中央金庫	420
(株)三菱東京UFJ銀行	420
第一生命保険(株)	210
(株)日本政策投資銀行他	670
合計	2,808

未払金

内訳	金額(百万円)
未払販売促進費	6,823
未払消費税等	75
設備未払金	67
その他未払金(諸経費等)	1,754
合計	8,720

長期借入金

相手先	金額(百万円)
(株)三菱東京UFJ銀行	2,385
農林中央金庫	2,385
(株)三井住友銀行	1,730
(株)日本政策投資銀行	762
(株)東京都民銀行	660
(株)みずほ銀行他	3,669
合計	11,592

退職給付引当金

区分	金額(百万円)
未積立退職給付債務	6,181
会計基準変更時差異の未処理額	720
未認識数理計算上の差異	25
未認識過去勤務債務	1
合計	5,436

(3)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	500株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社本店
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
取次所 買取・買増手数料	無料
公告掲載方法	電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.sbfoods.co.jp/
株主に対する特典	毎年3月31日及び9月30日現在の所有株式数500株以上の株主に対し、年2回、市価1,500円相当の当社製品を贈呈いたします。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第98期）（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）平成23年6月29日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成23年6月29日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第99期第1四半期）（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）平成23年8月12日関東財務局長に提出

（第99期第2四半期）（自平成23年7月1日 至平成23年9月30日）平成23年11月14日関東財務局長に提出

（第99期第3四半期）（自平成23年10月1日 至平成23年12月31日）平成24年2月14日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成23年7月1日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年 6月27日

エスピー食品株式会社

取締役会 御中

日栄監査法人

指定社員 公認会計士 國井 隆 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 腰越 勉 印
業務執行社員

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているエスピー食品株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、エスピー食品株式会社及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、エスピー食品株式会社の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、エスピー食品株式会社が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成24年6月27日

エスビー食品株式会社

取締役会 御中

日栄監査法人

指定社員 公認会計士 國井 隆 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 腰越 勉 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているエスビー食品株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第99期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、エスビー食品株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。